
これは淫獣です！

初心good

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

これは淫獣です！

【Nコード】

N6618S

【作者名】

初心good

【あらすじ】

なんと！なんの特徴もないごく一般的な少年がテンプレで転生し、神様からもらった力で程よく原作介入するようです。

転生等はテンプレで行きますが、ストーリー等はあまり被らないようにいこうかと思っています。

ブローグ1（前書き）

下手くそですがよろしくお願いします。

プロローグ1

ここは日本のごく普通の町。

僕はその普通な町に住んでいて、特に変わったことが起こらないこの世界に飽き飽きしつつも、この何も起こらないという平和を誰よりも愛している。

嗚呼、平和とはなんと幸福なんでしょう。

それにしても今日は実にいい天気だ。こんな日は何もない方向に無性に叫びたくなる。

「やあ！僕の名前は蔵見夏輝、設定年齢17歳かに座のB型。どこにでもいるような何の変哲もないごく一般の高校生さつ！……
……強いてみんなと違ふところを上げるとすれば魔法少女に興味があるってところかナ。以上！」

と、僕は誰もいない方向に一人勝手に自己紹介してみる。

「おいおい、急にどうしたんだ？何もないところにそんな恥ずかしい自己紹介しやがって。とうとう頭がいかれちゃったか？」

この僕の隣で僕の事を馬鹿にされていて、なおかつ髪型がサザエさん

みたいな少年は僕の親友の一般人Bさっ！」

「この髪型のどこがサザエさんなんだよっ！ちよつと癖毛だからって馬鹿にすんな！」

「なんとっ！君は人の心が読めるのか。いやあ、驚いた驚いた。」

「お前が声に出してたからだろ！っていうかなんで一般人Bなんだよ！さつきから急に自己紹介したり訳の分からない事いつたりお前どうしたんだよ！」

はて？この子はいったい何を言ってるのやら。どうやら僕の友人の頭はおかしくなってしまったようです。嗚呼、なんとということでしょうか……………

「お前、いま頭ンなかで俺の事馬鹿にしただろ。」

と、まあこいつは突っ込み役といったところですよ。

「ああ、何故自己紹介してしまったかって話だったかな？それはね……………僕は今日とっても機嫌が良いんだよ！その機嫌が良い理由といえば、今朝見たニュース番組の星座占いで久しぶりにか

に座が一位だったんだ。さらにラッキーアイテムが鈍器の様な物だったから、ずっと前から欲しかった鈍器の様な物を奮発して買ったんだよ！」

と、言いつつ僕は先ほど買った鈍器のようなものを友人に見せつける。

「いや、鈍器の様な物って何だよ。」

あれっ？思ったより冷たい反応が返ってきました。

「なんとっ！君は鈍器の様な物をしらないとなっ！国民の三分の一は持っているというのに……………」

僕は友人の突っ込みに期待しつつさらにネタを振ってみる……………

「へー、すごいね。」

なんとそっけない！まさか怒っているのか？そうなのかい？さっき馬鹿にしたこと怒っているのかい？どうしよう、いつそ勇気を出して聞いてみようかな……………いや、でもさらに冷たい対応されたら泣いちゃうかも……………

「ね．．．．ねえ、さっきから異様に僕に対して冷たい気がするんだけど何でかな？」

「へっ、別に怒ってなんかないけど。なにか？」

怒ってるよー！マジ怒ってるよ。口では怒ってないって言いつつも絶対怒ってるよー！

どうしよう．．．．めっちゃ気まずい。ちょっと馬鹿にしただけでこんなに怒るとは思ってもみなかったよ。こいつこんなデリケートな奴だったけ？

どうしよう、誤らないとだめだよね．．．．でもいまいち勇気が出ない、だって男の子だもん。

よしっ！こうしよう。次の曲がり角に出るときアイツの前に出てあやまる．．．．これで完璧！嗚呼、なんて天才的な作戦なんだろう．．．．

そして僕は、歩いていくうちにあと数十歩ところに曲がり角を発見した。

（よしっ！前に出て謝る。前に出て謝る。ああー緊張してきた！どうしようなんだかちゃんと許してもらえるか心配になってきたよ。）

そんな事思っているうちに曲がり角がもう目の前まで来ているっ！

（ああっ！もうどうにでもなれ！）

俺は意を決して友人の前にでる。

「さっき馬鹿にしてg「あっ！お前危ねえ！」えっ？」

俺が横を見ると目の前にトラックが猛スピードで突っ込んできていた。これはもう直撃ルートですね。避けれる自身がありません・・・

グシャッ！

僕がトラックにぶつかる瞬間、物がぶつかる音ではなく、物がつぶ

れる音がした。

そして、激しい痛みと衝撃とともに僕は意識を投げ捨てた
．．．．．

プロローグ1（後書き）

文章下手ですが、これから精進していきたいと思っているのでよろしくお願いします。

さっそく転生！（前書き）

頑張って書きました。

前回のような失敗をしないようにがんばります。

さっそく転生！

「あれっ？ここは・・・・・・・・・・」

僕が目を覚ますとそこは真っ白な・・・・・・・・いや、白色すらもない
奇妙な空間だった。

僕はとりあえず立ち上がり、周りを見渡す・・・・・・・・うん、
何も無いね。なんだか僕、怖くなって来たよ。

なんて思っていると、上から髭を生やした見るからに神樣的なおっ
さんが降りてきた。

「やあ、わし神だけど何か質問ある？」

やっぱり神様だったよ・・・・・・・・質問か・・・・・・・・じゃあ

「なんで僕はこんな若くて生き生きしているのに死んでしまったの
ですか？」

「あゝ、あれ儂のせいだわ、ちょゝごめん。悪気はなかったんだけ

どね、お前の台詞がムカツと来ちゃって運命を操作しちゃったのよ。」

なんですとっ！ いったい僕の台詞のどこにムカツく要素があつたというのだ！ こんな体が善意でできていると言つても過言ではないと親に言われているこの僕の台詞がっ！

「そこそこ、そういうのが儂苦手なんだわ……………地獄に送つてもいいかな？」

「すみませんでした！」

僕は即座に土下座する。地獄に送られるのは嫌だからね。

「はははっ、冗談じゃよ冗談。地獄には送らんよ、実はな、神が現世に介入して生命を終わらせるのはちよつと不味い事なんじゃよ。だからお前には転生してもらおうと思つておる。」

「え？マジっすか。俺、元の世界に戻れるんですか？」

「いや、それ無理。元の世界に戻すと他の神にばれるんじやよ。元の体に戻すのも然り。」

なんだってー！俺もう元に戻れないのか。まだあいつに謝ってないんだけど……………

「いや、それ困りますよ。僕あの生活気に入ってたんですから！元の体に戻してくださいよ！」

僕は精一杯の講義をする。

「ちつ、人間はなぜ魂の在り所にこだわるんじゃ？訳が分からない。前に転生させた奴も生き返らせるとか元に戻せとか、生き返らせるのは良いから前の体で転生させてくれとか。マジ訳分らん。」

えっー！何この神の態度。自分が悪い事しといて反省の欠片も無いじゃないか！

「だって僕、神だもん」

ちよっ！心の中読まないでほしいなあ。なんだか恥ずかしいじゃないか……………

「話を戻すぞ。前の奴も魂の在り所にこだわったんじゃが、転生の時に何かしらの能力を与えるという方向で落ち着いたんじゃよ。そこで、お前にもなんか能力あげるから大人しく別の世界の転生してくれ。というか、僕もそんな暇じゃないからさっさと転生しろ。」

マジっすか！能力くれるんすか！なんだあ、そんな夢みたいなこと
実現してくれるんならさっさと言っってくださいよ。

「じゃあ、仮面ライダーに変身する能力でお願いしまっす！」

僕、超ハイテンション状態。

「はいはい、仮面ライダーね。で、どの仮面ライダーが良いんだ？」

「オーズしか無いでしょ、リアルでタトバに変身できるなんて楽し
みだなあ」

「はいはい、オーズね。あと、転生方法はどつする？憑依か生まれ
変わるか」

憑依か生まれ変わるか・・・・・・・・・・ここは、断然生まれ変
わりで行くでしょ！

「生まれ変わりで！」

はいはい、生まれ変わりね・・・・・・・・・・あと転生先は魔法少

女リリカルなのはの平行世界だから、自由に世界改変してもOKね。好きにすればよいわ」

やたっ！魔法少女きたよ！リアル仮面ライダーにリアル魔法少女だよ！転生バンザイ。

「そういう訳で準備はそろった訳じゃが、もう思い残すことは無いな？」

「あっ！じゃあ、現世での俺の家族とか友人とかに、俺は元気でやってる的な事伝えてほしかったりするんだけど、いいかな？」

「よしっ！別にそのぐらいならやってやらん事もない。では、転生してもらっぞ」

嗚呼、とうとう転生するのか。楽しみ半分少し怖いです。あっ！意識が遠のいていく……………

そこで僕は意識を手放した。

side:夏輝 out

side:神

ふう、やっと転生したか。手数かけさせるなあ、本当に疲れた。
このストレスはどこにぶつけようか……

そうだった！さっきの奴の能力を少しいじってやろう。ふふふっ、普通に仮面ライダーに変身するとか人間に転生するとか全然面白い！という訳で、俺が少し改変しておくかな……

奴の驚く顔が目には浮かぶぞ、ふふふふふ。

side:神 out

こうして、僕は転生した。

さっそく転生！（後書き）

頑張りました。

台本書きもしないで済むといいけど、もしかしたらするかも。

ブローグの次。第0 / 5話（前書き）

頑張って書いた。

もう同じ失敗をしないようにちゃんと2話3話先の事を考えて執筆中。

プロローグの次。第0 / 5話

(うつ．．．．．あれっ?)

僕が目を覚ますとどこか真っ暗な場所にいた。

(あれ?あれ?生まれ変わりのテンプレといえば親から生まれてくる瞬間じゃないの?)

次にしゃべれない事にきずいた俺は内心焦っていた。

(これってどういう状況だよ。真っ暗だし、しゃべれないし、なんだか狭いし!)

そう、なんだか箱の中に入れられてるように狭いのだ。しかも周りがなんだかジャラジャラとメダルのような音がしてるし．．．．．メダル?．．．メダル?

メダルといえば僕の頭の中ではセルメダルが一番に出てくるのだが．．．．．まさかとは思うけど、いやまさかそんな．．．．．
．．．神様の奴僕をグリードに転生させたのか?

確かに生まれ変わりっちゃあ生まれ変わりだけど．．．．．
いやそんな訳ないよね？きつとまだお母さんのおなかの中なんだよ
きつと。うん！そうに違いない！そうに決まってる。

（はははっ！お前なかなか鋭いな。そのとおり、お前はグリード．
．．．．．いやグリードそっくりのメダルの化け物に転生したのじ
ゃ！）

（なんだってー！神様．．．．．あんたって奴はなんて事を．．
．．．．．なぜこんな酷い事をするんだ！せめてグリードにして
ほしかった！）

どこからともなく神様の声が聞こえたと思ったら急に衝撃的な告白
をされてしまった。なんてこったい。

（基本はグリードと同じで9枚のコアメダルから成り、セルメダル
をまとって体を作る感じじゃ、一応儂からのサービスで全種類のコ
アメダルとオーズドライバーを用意しておるが、お前には変身でき
ないようになっているから。）

（神様．．．．．何故そんな嫌がらせをするんですか。せつかく
仮面ライダーになれると思ってたのに。こんなの絶対おかしいよ！）

（はははっ！そんな仮面ライダーになりたいだなんてありきたりな

物じゃきつとつまらんぞ？逆に考えてみる、グリードだったらヤミ
ーも作れるし、人間に姿を変えるときイケメンにすることだってで
きる。さらにセルメダルを多く集めればきつと誰よりも強くなれる
ぞ？）

（でも結局コアメダル奪われたりなくしたり、腕しか復活できなか
ったりコアメダルが暴走したりするんでしょ？僕死んじゃうよ？）

（それはそうだがコアメダルの暴走は無いぞ。何故ならお前は結局
グリードじゃなくて、それによく似たメダルの化け物というポジ
ションなのだから。ああ、オマケに人間以外の生き物にも擬態でき
るぞ、グリードじゃないから。）

（それはお得だっ！確かに仮面ライダーじゃなくてもいい気がして
きたよ神様！）

（はははっ、分ってくれたら良いんじゃないよ。だがコアメダルが足り
なくなったり、セルメダルが不足したら弱くなるから気をつけろよ、
あとコアメダルが少なすぎると、腕しか復活しなかったりするから。
）

（なるほどね、肝に銘じておくよ。ところで僕はどこにいるんだい
？なんか箱みたいなのの中にいるのは分ってるんだけど……
・・・）

（ああ、なんかしらんが輸送艦みたいじゃぞ。他にもいろいろなものが積まれておる。例えば・・・・・・・・この21個の変な宝石とか。）

（え？それジュエルシードじゃない？）

確かジュエルシードって無印編前に輸送中の事故で地球に落ちて来たんだよね・・・・・・・・なんだかやばくない？

ドゴーン！

ウボアー！僕の運ばれていた輸送船が木端微塵につ！

どうやら僕はここまでの様です。皆さん、さようなら。

（いや、このまま地球に落ちて原作開始っていうふうにしといたから大丈夫じゃよ。）

（なんだ、またあんたの所為だったわけだね。じゃあ大丈夫だ）

皆さん、僕はまだやれるようです。これからもよろしく！

ブログの次。第0.5話（後書き）

頑張りました。

感想欲しいです。

主人公設定ですけど何か？（前書き）

主人公の設定です。

後々更新。

主人公設定ですけど何か？

名前：蔵見夏輝

性別：♂

身長：ヒ・ミ・ツ・♪

体重：僕の体重なんかに興味があるんだね……………

体格：ひたすらにスマートとしか言いようがないのですが文句あります？

年齢：0歳

スリーサイズ：禁則事項です。

口癖：嗚呼、くく

容姿：ヤミー成長前ですが何か？

生態：グリードっぽい何か別の生物

能力：後々明かしていきます。

現在分っている能力

・生き物になら何でも擬態できます。

・ヤミーも作れるよ。

・クスヤミーも作れるよ。

・僕はセルメダルの数だけ強くなる。

・仮面ライダーになれない。

・コアメダルを取り込む事によって姿を変えることができる。

例）タカメダルを取り込むと頭がアंकに、トラメダルを取り込むと胴体がかざりに、バッタメダルを取り込むと足がウヴァに。能力はオーズそっくりにできるし、グリードの技も使える。

説明：神の気まぐれで死んでしまい、テンプレで転生。

転生の際に神にストレスを与えてしまい、頼んだはずの能力とかとは全然違う能力を貰うことに……………

主人公設定ですけど何か？（後書き）

どんどん書き足す予定です。

気が付いたら増える。

第一話 仮面ライダー？なにそれおいしいの？（前書き）

今回なかなかの出来だと思う。

主人公設定更新しました。

第一話 仮面ライダー？なにそれおいしいの？

やあ、夏輝だよ。

輸送艦の爆発で外に飛び出してしまった僕だけどなんとか無事に着地できました。

おそらくジュエルシードと一緒に海鳴市に落ちて来たのでしょうか。
.....

(ふたが開かなくて出れないんですが.....)

どうやら人があまり来ないところに落ちてしまったのだろうか、一向に誰かが僕が入っている箱のふたを開けてくれない。

(どうしようか、このままじゃきつと誰もきずかないぞ.....
.....そうだ、助けを呼ぼう。)

僕はとりあえず念話で助けを呼ぶことにする。

(だれかー。Help me! Help me!)

助けを呼ぶこと数日

（ちよっ、誰か。マジでHelp me）

誰もこねえ！どういつこったいこれは。

はっ！そういえば地球って魔法文化のだけ。なるほどね、どつり
で誰も反応しない筈だよ……………

って、どうすんだよ、出れねえ！

くこうして夏輝は原作に介入することもなく平和に暮らしたとき。
めでたしめでたし

（はい、冗談です。まだあきらめないよ僕は。でも自分の力ではど

うにもならないから助けを呼ぶよ。H e r p ー)

ー助けを呼ぶこと数時間ー

(H e l p ー。誰かー助けてー)

「だれかそこにいるんですかー」

おっ！誰か来た！この声．．．．．きっとユーノ君だー！や
たっ。これで出れるぞ。良かったよかった。

(名も知れぬだれかー。H e l p m e ー！なんか不審者Xに箱に
閉じ込められて出れないんですー)

「なっ！それは大変だ。今助けますからじっとしててください！」

(名も知れぬだれか．．．．．ありがとう！)

本当にありがとうユーノ君。もう君の事を淫獣だなんて思わないよ。
むしろそんな事言ったやつをオレアムツコロス！

ズズッ．．．．．ズズズッ！

おお、太陽の光が眩しいよ。これが「シャバの空気はうめえ！」って奴ですね．．．．．いま分かった気がするよ。

「開けましたよー。大丈夫ですか．．．．．って、メダルしか入っていない!?」

（ふふふっ。名も知れぬ誰か．．．．．君は開けてはいけないパンドラの箱を開けてしまったんだよ）

僕は何がかっこいい台詞を言う、新キャラクターは初登場が肝心だからね。次にとりあえずセルメダルで体を構成する事にしたよ。

ジャラジャラジャラジャラ

周りにメダルがぶつかり合う音が響く。

「うわっ！なんだお前は！」

「ふう〜、やっと喋れる。やああ名も知れぬ誰か。さっきは蓋を開けてくれてありがとう。別に君に敵対しようとか襲おうとか考えて

ないから安心していいよ」

僕はとりあえずこう言ってみたがユーノは警戒を解いてくれない。
まあ、当たり前か．．．．．普通警戒するよね、メダルがひ
とりでに動き出したら。

「いや、本当にごめん。最初に思わせぶりな発言しちゃって。別に
開けてもいけない箱じゃなかったんだよ、むしろ開けた方が良い箱
だったんだよ。いや．．．．．本当にごめん。謝るからそんな
に警戒しないでほしいなあ」

警戒を解かないユーノ君。

「いや．．．．．うん。本当にごめん．．．．．
．ちよつと僕帰るわ。それじゃ、またいつか」

ユーノ君がね、すごく睨んで来るんだ．．．．．きつ
とジュエルシード集めようとここに来て、集めようとしたとたんに
僕に遭遇したんだと思う。

そりゃ怒るわな！でも反省はしない。当たり前じゃないか、僕は謝
ったんだからこれでお相手よ。

さてと、能力の確認でもするか．．．．．おや？ところで僕は今どんな姿をしてるのかな？一応手元には全てのコアメダルがあるわけですが、どれも取り込んでないです。

手とか見た感じヤミー成長前か、コアメダル不足のグリード的な感じだと思うんだけど．．．．．まさかヤミーだなんてことは．．．．．まあ、鏡が無いから確認できないけどね！

とりあえず擬態～

はいつ、フェレットになってみました。小動物の体はなかなか動きやすいものですね．．．．．。

さらに擬態～

次に人間になってみた。頭の中で考えた姿が自分の姿になるようなので、前世で好きだったアニメキャラの容姿にもなれるようです。

あれっ？この能力悪用しまくれるんじゃないの？例えばなのはの姿になってユーノに告白してぬか喜びさせたり、アリシアの姿になっ

てプレシアにぬか喜びさせたり、はやての姿になってヴォルケンリッターの前で歩いて見せてぬか喜びさせたり、フェイトの姿になってなのはと友達になったふりしてぬか喜びさせたり、リンディの姿になった後、クロノに「お茶に砂糖を入れるのはやめようかしら」なんて言ってみたり。

さらにさらに、女性の姿になって女湯に・・・・・・・・ごほんごほん。なんでもないです。

とりあえず、人間時の姿はクロノの容姿を土台に顔のパーツを少しいじって、「クロノ+なんかかつこいい人」ぐらいの容姿で固定しておくことにしました。

はいっ！もとに戻りました。

次にヤミーを作ってみたいと思います。

だれか良い実験体いなか～。

おや？あんな所に人が・・・・・・・・よし！君に決めたっ。

僕は後ろから近づきセルメダルを頭に投入する。台詞はもちろん。

「お前の欲望、解放しろ」

くうー！この台詞一度言っただけ見たかったんだよね。

あれっ？ヤミー出てこないけど……………故障？うーん
なんでだろ？

く考えること数分く

コアメダルを取り込んで無かったせいという結果で落ち着きました。

とりあえず、「クワガタ」「カマキリ」「バッタ」のメダルを全部
取り込んでみることに……………

おや？夏輝の様子が……………

テレーン！

おめでとう！夏輝はウヴァに進化した！

ニツクネームをつけますか？↓はい

む↓むし↓虫↓虫あ↓虫あた↓虫あたま↓虫頭

虫頭でよろしいですか？↓はい

虫頭はだれかのボックスに送られた。

ってあれ？僕の姿がウヴァになってるんだけど、もしかして僕コア
メダルの種類でいろんなグリードになれるって事かな？

だとしたらすごくうれしいんだけど。形態が増えたよ！やったぜ俺！

〜一通り実験中〜

ふい〜。とりあえず全種なれるようです。感動的だな、だが有意味

だ
・
・
・
・
・
・
・

嗚呼、この体
・
・
・
・
・
・
・
・
最高！

第一話 仮面ライダー？なにそれおいしいの？（後書き）

読んでくれてありがとう！

感想欲しいです！

第1 / 5話 スーパー実験タイム！（前書き）

今回少し短いけど今日からGWだから次は頑張ろうと思う。

第1 / 5話 スーパー実験タイム！

うー、ジュエルシードジュエルシード。

いまジュエルシードを求めて全力疾走している僕は、遺跡発掘を趣味にしているごく一般的な淫獣。

強いて違うところを上げるとしたら少女に興味があるってところかな。
.....

名前はユーノ・スクライア

そんな訳で帰り道にある公園のトイレにやってきたのだ。

ふと見ると、ベンチに若いグリードが座っていた.....

うほっ！いいグリード.....

そう思っていると突然そのグリードは僕の見ているその前でメダルを一枚取り出し始めたのだ.....！

「お前の欲望．．．解放しろ」

「えっ？ちよっ！あっ！アーーーー！」

という夢を見たのさっ！

やあ、みんな元気？夏輝だよ

最近アंकみたいに腕だけになってみたんだ。

この姿ね、案外移動に便利なんだよ。飛べるし、見つかりにくいし、狭いところも通れるし、スカートの下．．．．．ごほんごほん。なんでもありません。

ちなみにヤミーの性質も取り込んだコアメダルによって変わるよう

で、取り込んでいるコアメダルの数と種類によって強さも変わるよ
うなんだよ。

最近そのヤミーに興味が出てきてまして、「ヤミーにジュエルシード
を組み込んだらどうなるのか」っていうのが今の僕の課題だね。

はたしてジュエルシードは欲望には反応するのか、ってのが気にな
りまして。「欲望」の性質って「願い」と似てると思うんだ。

あれがしたい、あれが欲しい、こうなって欲しい、これは「願い」
の一例だが、これらは「欲望」の一例でもあると思うんだよ僕は。

と、いう訳で今ジュエルシード探索中です。実験するにはまず材料
を集めないとな．．．．．

（探索中）

やはり腕だけだと移動しやすいなー。しかし一向にジュエルシード
が見つからない。どうするべきかな．．．．．

なんて言っていると下校中の小学生とばったり鉢合わせしてしまった

よ。

「あっ！ツチノコだー！」

「うわっ！木の棒でたたかないでっ！ちよっ！やめっ
」

アーーーーー！！

ふう。何とか逃げ出すことができましたが・・・

あの糞餓鬼ども容赦なく棒で突きまくってきやがった・・・
・・・もう、お婿にいけないっ。

「この姿のままだと危険だね、便利だけどうがないかな。」

このままでは確実に殺られるので、僕はとりあえず人間の姿に擬態することにしたよ。

「これでよし!と。」

ぼくはクロノ+ちよつとかっこいい人ぐらいの人間に擬態。

それでもう安心だね。さてと、ジュエルシード探すかな。

嗚呼、ジュエルシードよ……いつたい何処いどこに……

探索中

結局見つからなかったよ。もう周りは真っ暗だしそろそろ寝るかな。

寝るときには小動物に擬態して野宿です。虫に擬態してたら常に死と隣り合わせだからね……………

．．．．．
Z Z Z Z Z

ピキーン！

はっ！この感じ！ジュエルシードかな？

ちよつと行つて見ることにするね。これでやつと実験ができるよ。

移動中

はいはい、やつて来ました反応のあった場所。うん、いろいろ荒れてます。木がたくさんへし折れてます。どうやったらこんなに荒れるのやら………なんだか僕、怖くなつてきちゃいました。

ドカーン！

「おや？あちらの方から物音が。これは行かなくちゃいけないでしょう。何故かって？そこに物音があるからさ！」

確かこちらで音がしたような……あつ！ユーノ君が
ジュエルシードの思念対と戦ってる！

まあ、助けたりしないけどね。当然じゃないか、ここで介入なんかしちゃったらなのは魔法少女にならなくなっちゃうだろ。

まあ、今回はあきらめるかな。ジュエルシードもまだたくさんあるわけだし、原作完璧につぶしてまで手に入れるほどの物でもないしね。

という訳でねぐらに帰ります。ユーノ？放置ですがなにか？

ばいばいユーノ君。今回はゆっくりボコられてってね！

第1 / 5話 スーパー実験タイム！（後書き）

がんばりました！

感想さらにほしいです。

第2話 高性能屑ヤミー隊！（前書き）

今回も執筆がんばった。

自分的にかいてて楽しかった。

あと、ヤミーの名前変更しました。
サイヤミー↓タコサイヤミー

第2話 高性能屑ヤミー隊！

やあ、こんにちは夏輝だよ

今必死に屑ヤミーを作ってるんだっ！今ちょうどセルメダル14枚使って28体の屑ヤミーを作ったところです。

さかのぼること数時間

「なかなかジュエルシード見つからないな」

僕は今必死にジュエルシードを探してます。でも一向に見つからないんだ。

「流石に一人で探すにはこれが限界かな。ユーノ君と協力すれば早いだろうけど絶対取られるし自由に使えないから無理だな。・・・そうだ、屑ヤミーを作ろう」

僕にしてはすごい作戦だろ？屑ヤミーならメダル一枚につき二体できるし、なによりメダルを割るだけでいくらでも作れるんだ！お得な作戦だろ？

「という訳で、早速わってみようかな。そりゃ！」

パキンッ！・・・・・・・・・・うねうねうねうね

がががががつ！・・・・・・・・・・ピシッ！シャキーン！！

「我！人の欲望追い求め、今ここに降り立った。屑ヤミーAエエエ
エエー！」ピシッ！

「同じく！人の欲望追い求め、今この場に颯爽登場。屑ヤミーB
イイイイー！」ガシッ！

ドカーン！（後ろで赤色と青色の爆発）

なんだなんだ！なんだこれなんだこれ！ちよっ、どうなってんのこ
れ？僕屑ヤミーを作ったんだよね？確かに見かけは屑ヤミーだけど
テレビで見たのとだいぶ違うよ！

「えーと、屑ヤミーだよな？」

「「はいつ！隊長殿！我らは屑ヤミーであります！」」

おお、僕隊長みたいだよ。なんだかうれしいな♪よしっ！もっと作ろう。

.....

「我！人の欲望追い求め、人目も気にせずやってきた。屑ヤミーC
イイイイイ！！」ガッ！

「同じく！人の欲望追い求め、愛と正義の結晶体。屑ヤミーDイイ
イイイイ！！」シャキーン！

「同じく！人の欲望追い求め、君の笑顔のためにやってきた。屑ヤ
ミーEイイイイイ！！」じゃじゃーん！！

「同じく！人の」ry

（省略）

「同じく！人の欲望追い求め、体を改造されちゃった。屑ヤミーVスリヤアアアアア！！」てってれー！！

「同じく！人の欲望追い求め、警察沙汰になりかけた。屑ヤミーRX！！」テテーン！！

ドカーン！（後ろで28色の爆発）

くそして現在く

うん。ちよつと作りすぎちゃったね。26体でやめておくんだっだよ。名前がAくZからはみ出てなんか訳分らない名前の奴出てきちゃったよ。

AくZまでは順調だったんだよ。でもねちよつとZを超えたらどんな名前になるのかなー？って好奇心がちよつと………ね。わかるだろ？僕だってVスリヤーが出てくるなんて考えもしなかったんだ。本当に予想外だよ。

「えくと、あれだ。ちよつと失敗しちゃったけど本題に移るね。君たちにはジュエルシードっていうものを探してもらおうと思うんだ。はいっ、これ資料だから屑ヤミーRX君みんなに配ってくれるかな

？」

RX「はいっ！分りました隊長殿！よしみんなー、一列に並べー！プリント回すから一人一枚とってしっかり目を通しとけよー」

おおっ！この屑ヤミー、一人一人に配るよりも早く、尚且つ配りもれのでない方法をとoryがった。すげえ……………僕の屑ヤミーは高性能の様です。

Y「隊長殿！この資料のとうりだと我々が素手で触ると危険な気がするのですが、どうすれば良いでしょうか？」

「ああ、そのことならもう考えてあるよ。このごみを拾う時に使う道具を使うんだ。一人一個ちゃんとあるからみんな忘れないように持って行く事！いいね！」

「『イエッサー！！』」

「それじゃあ午前5時にこの公園に集合。人に見つかったら逃げる事！では、作戦開始っ！」

「『イエスツ！サーーーー！！』」

おお、みんな一斉に飛び出していったよ……………さてさて、僕も探すかな。

～そして探索フェイズ～

では、とりあえず住宅街を探そうかな。

「うーん暗くてよく見えないな……………そうだっ！力ザリになれば夜目が聞かかも」

僕はライオン、トラ、チーターのコアメダルを取り込む。

ジャラジャラジャラ

メダルのぶつかり合う音が響き、僕の姿は力ザリに変化した。

「おおっ！すごくよく見える。これなら夜でも楽々探せるよ」

という訳でさくさく探索することにするよ。見つかるといいな、
ジュエルシード。

「時間がたち、集合場所へ」

ふいふ、結局収穫ゼロです。僕もね、一生懸命探したんだよ。でも
ねちよつと見つからなかっただけなんだよ、決してサボってた分け
じゃないんだからねっ！

さてさて、屑ヤミー隊の収穫はどうか？まあ、どうせ無理だろう
ね。僕でも見つけれなかったんだから屑ヤミーなんかに見つかる
w「隊長殿ー！ジュエルシード15個保管しましたー！」あるえ？

「えっと、うん。ちょっと見せてもらってもいいかな？」

A「わかりました！よしっ！屑ヤミーv、ジュエルシード持ってこ
い」

V「わかりましたっ！これがジュエルシードです」

わーお、本当に15個あるよ。いや、ホントこいつら凄いなー。

「で、どこにあったのこれ？」

A「海鳴市のいたるところに落ちてました。あと、海の中に6個ジュエルシードがあるようなのですが、我々は泳げないので回収を断念しました！」

「海の中か！よしっ！回収に行くよ」

屑ヤミー隊「イエス！サー！」

くと、いつ訳で移動中

さてと、海に来たのは良いけどどうしようか。

うーん、思いつかない。僕のような虫頭じゃ全然いい案が浮かばないよ……よし！屑ヤミー隊に聞いてみよう。

「屑ヤミーS、なんかいい案無い？海の中のジュエルシードを簡単に回収する方法」

S「うーん、特に思いつかないっすね。みんなに聞いてみましょうか？隊長殿」

「うん、そうしてくれると助かるよ」

S「よし！みんな聞いてくれ！隊長殿が海中のジュエルシードの回収方法について悩んでおられる！各自6人ずつの班に分かれ、相談し合ってくれ！時間は10分以内だ。．．．．．以上！」

嗚呼、なんて僕の屑ヤミーは賢いんだろう。一人一人の意見ではなく多数で話しあ事によって、より良い案を導き出せる方法をとるだなんて．．．．．

（10分後）

S「隊長！みんなの意見を整理し、まとめてきました！」

「うん、で？どういった作戦なんだい？」

「はっ！隊長殿がサイ、ゴリラ、ゾウのコアメダルを取り込んでガメル姿になり、それを素体にシャチ、ウナギ、タコのコアメダルを取り込んだ後、隊長殿自身の「ジュエルシードを回収したい」という欲望を解放すれば、簡単に製造できて、水中を移動でき、尚且つどんな水圧にも耐えられる重量級のヤミーができるはずなのでそれを使えば良いのでは？という案が最も有力です」

うん、もう君たち屑ヤミーやめちゃいなよ。全然屑じゃないよ．．．
．．．．．よし！君たちは今日から良ヤミーだ！と思ったけど語呂が悪いのでやっぱり屑ヤミーで．．．．．

「うんうん、君たちの言いたいことは分ったよ。じゃあヤミー作るわ」

僕はまず、サイ、ゴリラ、ゾウのコアメダルを取り込みガメル姿になる。そしてシャチ、ウナギ、タコのコアメダルを取り込みパワーアップする。

「よし、じゃあ．．．．．僕の欲望、解放しろ」

僕は自分にセルメダルを一枚投入する。すると．．．．．

ズズズズズッ！

にゆるにゆるにゆる！

ぽぽぽぽーん！

タコサイヤミー「ジュエルシード、回収したいー！」

変なヤミーが出てきました。うん、見た目を簡単に言うとね、タコの足がいろんな所から生えている二足歩行のサイ。ほんでもって、顔がおっさん。感想言つとすごく………気持ち悪いです。うげえ！。

「よしっ！じゃあジュエルシードの回収頼むよ。タコサイヤミー君」

タコサイヤミー「うおおー……」バシャー……ン！

おおっ、すごい勢いで海に飛び込んでいったよ。ジュエルシードはこれだいたいそろっかな？

屑やミーA「あんな奴で大丈夫なんでしょうか？たしかヤミーって
ジュエルシードを直で触るといけなかったような気がするのですが
．．．．．」

「「「「あつ！」「」「」」

ピカーーーー！

その瞬間海の方ですごい光が！この正体はまた来週〜。

第2話 高性能屑ヤミ隊！（後書き）

読んでくれた方、そして前回コメントを書いてくれた方々、本当にありがとうございます！

そしてコメントがさらに嬉しいです。

執筆しているgoodにとってコメントは救いなのです。

第三話 混ぜるな危険！（前書き）

今回は少し時間をかけて多めに書いた。

微妙に頑張りました。

あと、コメント書いてくださった方々、本当にありがとう！

第三話 混ぜるな危険！

「これは淫獣ですか？（仮）」第3話

前回の三つの出来事！

一つ、ジュエルシードを探すために屑ヤミーを28体作った。

二つ、屑ヤミー隊が地上にあるほとんどのジュエルシードを回収。

三つ、夏輝の「ジュエルシードを回収したい」という欲望からヤミーが誕生。

ピカーーーーー！！

A「隊長殿！これってまさか！」

「うん、これはきつと素手で触っちゃたんだね……………」

どうなるんだろ、これ。」

はい、さっきから光がどんどん大きくなっていつてるんです．．．
．．．．．まさかとは思うけどジュエルシードの力にのまれつ
つも海中のジュエルシードをどんどん回収してるんじゃないでしょ
うね？いやいや、さすがにそこまで馬鹿じゃ．．．．．
．．．うん、たぶん馬鹿だね。ガメルであれだからそのヤミーはもっ
と．．．．．ね、言わなくても分るでしょ。

A「隊長殿！タコサイヤミーの欲望力がどんどん上昇していきます
！100．．．．．200．．．．．450．．．．．70
0．．．．．900（どん！）うわっ！スカウターが測定しきれ
ないだっ！」

「あれ？君そんな機械つけてたっけ？」

A「そんなことはどうでもいいです！で、どうしましょう。このま
までは管理局に嗅ぎつけられてしまいます。迅速なご判断を！」

屑ヤミーAが判断を迫ってくる。

うゝん、これはあまり使いたく無かったけど．．．．．
仕方ないよね。

「屑ヤミーA君。これが何か分るかな？」

僕は見るからに危険そうなスイッチを屑ヤミーAの前に出す。

A「これは……………何かのスイッチですか？」

「いや、スイッチなのは見て分るだろうけど……………
簡潔に言うとタコサイヤミー君の自爆スイッチだよ」

屑ヤミー隊「……………!?」「……………」

T「隊長殿！気は確かですか！ジュエルシールドにのまれたとしても
タコサイヤミー君は私たちの家族ですよ！それを自爆させるなんて
……………酷過ぎますっ！」

「屑ヤミーT！悲しいのは皆いつしよだ！それに、このままにして
いく方がタコサイヤミー君がかわいそうだろ？」

T「ですが……………しかしっ！たとえそうだとしてもっ
！タコサイヤミー君は僕たちの家族なんです！」

「仕方ない事なんだよこれは。ここで始末しておかないと関係のない人たちにまで悲しい思いをさせてしまうんだ……………」
「分つてくれ、屑ヤミーT」

T「仕方ないだなんて……………隊長殿は悲しくないんですか！そんな……………タコサイヤミー君がかわいそうですよ！」

「悲しいに決まっているだろう！僕の判断ミスでこんな事態になつてしまったんだ！でも、そこで僕が自分の感情を優先し、タコサイヤミー君を放っておくなんて無責任すぎるだろ！これは……………」
「……………遊びじゃないんだよ」

屑ヤミーT「！！」

屑ヤミーT「隊長……………すみませんでした。俺、ちよつと感情的に……………うつつ」

「屑ヤミーT、分つてくれたら良いんだよ。みんなっ！聞いてくれ。僕は今からタコサイヤミー君の自爆スイッチを押そうと思う！異論のあるものは前に出てくれ！」

ザッ！

そういうと、屑ヤミーVスリヤーが一步前に出た。

「なんだい。なにか意見でもあるのかい？甘ったれた意見だったら承知しないよ。」

僕は少し感情的になり、つい口調が強くなる。

Vスリヤー「あゝ。ヤミーの親ならヤミーをセルメダルに変換できんじゃないでしょうか？」

屑ヤミー隊+夏輝「……それだっ！」「」「」

「と、いう訳で、作戦を説明するよ。まず、僕が適当に海の中に攻撃を打ち込み、それに反応して出てきたタコサイヤミー君を君たち屑ヤミー隊が捕獲。捕獲の方法は各自で話し合っ
て決めてね。で、君たちが無事捕獲できたら僕がタコサイヤミー君に近づいてセルメダルに変換するから。作戦開始は15分後だよ！」

「……イエス！サー！！」「」

（15分後）

「よしっ！みんな準備はいいかい？」

「いつでもいいです！」

「では．．．．．作戦開始！」

僕は合図をかけると共に、ライオン、トラ、チーターのメダルをすべて取り込む。

ジャラジャラジャラ

メダルのぶつかり合う音が周囲に響き、僕の姿はカザリに変化する。

そして僕は海に飛び込み．．．．．

「ハアーーーーー！」

頭部から熱光線を放ち、周り一面の海水を蒸発させる。（ラトラー

タコンボ初登場シーン参照)

ふふふっ！この僕はカザリ有能力以外にもオーズの力も使えるのさっ！(主人公設定より)

グオオオオオオオオオ！

そこにはジュエルシードの影響か、完全な化け物に変貌したタコサイヤミーがいた。

「屑ヤミー隊！僕がタコサイヤミー君を陸に上げるから捕獲頼むよ！」

僕はそういつと風を操って竜巻を起こす(カザリ有能力の応用)

「ハアーーーーー、セイヤアーーーーー！！！」

僕は掛け声とともにタコサイヤミーだった物を空に高く巻き上げると、素早くライオン、トラ、チーターのコアメダルを吐き出し、タカ、クジャク、コンドルのコアメダルを取り込む。

ジャラジャラジャラ

メダルのぶつかり合う音が周囲に響き、僕の姿はアंकに変化する。

そして羽を展開してタコサイヤミーに向かって飛び上がる。

「ふふふっ！オースの力が使えるならこれは絶対しなきゃでしょ」

僕はセルメダルをタジャドルスピナーとオースキャナーに変化させる。うん、ここまでやったら僕が何をしたいか分るでしょ？

僕は体内からタカ、クジャク、コンドルのコアメダルを一枚ずつ取り出し、タジャドルスピナーに入れ、オースキャナーでスキャンする。

（タカ！クジャク！コンドル！……ギ・ギ・ギ・ギガスキャ
ン！！）

タジャドルスピナーの音声と共に僕は不死鳥を模した炎を纏ってタコサイヤミーに向かって突撃する。

「ハアーーーーー、セイヤアーーーーー!!」

僕は必殺技、マグナブレイズを使ってタコサイヤミーを陸に向かって突き飛ばした。

「くそっ! やっぱ固いな。マグナブレイズを使ったのにアイツ無傷だよ」

ジュエルシードの影響か、タコサイヤミーには傷一つ着いていなかった。恐ろしいなジュエルシード、ヤミーと組み合わせたらすごく危険だね。あれだよ、今度から混ぜるな危険のラベルを張つとかないと……………

ドシーン!

タコサイヤミーが地面に落下したようです。すげえ、クレーターができてるよ、どんだけ重いんだろう。気になるね。

A「みんなー! 行くぞー!」

屑ヤミー隊「オーーーーーー!!」

よしっ！ここまでは作戦どおりだね。みんな頑張ってくれよ……

（5秒後）

「全滅………だと？」

一瞬だった。そう、この大役は屑やミー隊には荷が重すぎた。それほどまでにタコサイヤミーは強くなっている………
これがジュエルシードの力………素晴らしい！最高じゃないか！これほど興奮するのは腕だけになって女性のスカートの下にもぐり………げふんげふん、以来だよ！
やっぱりジュエルシード欲しいなあ。よしっ！僕がちゃちゃっとやつけよう！そうしよう。

「ふふふっ！僕の本気を見せてやんよ！」

僕はいったん全てのコアメダルを吐き出し、元の姿に戻って地面に着地する。

「これが僕の切り札さっ！セルメダルがコアメダルに勝てないってのを教えてあげるよ」

そついうと僕は三枚のコアメダルを取り込む。

（タカ！イマジン！ショッカー！……タ・マ・シー・タマシイー・グリード魂！！）

ジャラジャラジャラ

メダルのぶつかり合う音が周囲に響き、僕の姿はショッカーグリードに変化する。

「ははっ！僕は最初からクライマックスだぜ！くられ、魂ボンバー！！」

僕はいきなりショッカーマークを模した炎とイマジンの砂を凝縮した砂の弾丸を放ち、最後に3枚のコアメダル型のエネルギーを発射した。

ズガァー……ン！！

周囲に爆音が響く。いくらジュエルシールドを6枚取り込んだタコサイヤミーでもこの劇場版限定の技の前では屑ヤミー同然だね．．．．．同然であって欲しいです。

タマシーボンバーの爆風のせいでタコサイヤミーが見えない。おや？これは勝ったかな？正直ジュエルシールドの力がどれほどの物か知らないから不安だったんだけど．．．．．おや？やつと見えて来たぞ。あれ？

そこに立っていたのは魔法で障壁を張り、無傷のまま特大のビームを放とうとしているタコサイヤミーの姿があった。

「ちよっ、待ってよ！マジでやばい。こんなにやばいのは小学生にばったり遭遇した時以来だよ！こうなったらあれを使うしか．．．．．」

僕は急いで右腕にすべてのコアメダルとできるだけのセルメダルを詰め、真上に向かって思いっきり．．．．．発射する。

プシューーーーーーン！

僕は風船が飛んでいくような音を出しながらできるだけ高く飛び上がる。と、同時にタコサイヤミーが元・僕の体に極太ビームを発射した。そして元・僕の体はチリ―つ残さずに消滅．．．．．うん！洒落にならないね！僕は逃げます。ああ、後最後に自爆スイッチ押していくか．．．．．

僕が自爆スイッチを押そうとした瞬間、タコサイヤミーが僕に向かって先ほどのビームを打ってきた。

「うわっ！」

僕は間一髪で避けたが自爆スイッチを落としてしまった。

「ああっ！自爆スイッチが。って、また打ってこようとしてるよ！うわ〜〜〜」

僕は半泣きになりつつも必死に距離を取ろうとするが．．．．．
．．．うっかりカスツちゃいました。

「あばばばばばばば．．．．．ぐへっ」

しびれるっ！なんぞこれ！？なんぞこれ！？ああ、目の前が真っ暗

に
〜
〜

そこで僕は意識を投げ捨てた。

第三話 混ぜるな危険！（後書き）

読んでくれてありがとう。

最近書いてて楽しいです。これも皆さんのコメントのおかげ。

第4話 家族が増えるそうです。(前書き)

さっき操作ミスでちょっとやばい事になった。

それと、コメントをしてくれた方々、本当にありがとうございます
！！

第4話 家族が増えるそうです。

「これは淫獣です！」第4話

前回の3つの出来事！

1つ、ジュエルシードの影響でタコサイヤミーが暴走。

2つ、屑ヤミー隊が全滅。

3つ、夏輝のタマシイボンバーが炸裂するがタコサイヤミーは無傷だった。

うつうつ．．．．．やばす。体中が痛いです。どれだけ痛いかって？体中筋肉痛のくせに無理に動こうとして体中の筋肉が攣ったような痛みだよ．．．．．げふつ。

僕はとりあえず今あるだけのセルメダルで擬態できるような小動物

に擬態する。自分でもどんな姿をしてるか分らないけど、生腕よりマシだろう。

とりあえず、助けを呼ばないと……死にはしないだろうけどセルメダルが少なすぎる。

僕は念話で助けを呼ぶことにした。

（だれか、心優しい方。Help Help。SOS！SOS！）

これを1時間おきに繰り返す事にしよう。ずっと念話つても疲れるし今のままだといつ念話がでなくなるか分らないからね。今何時くらいだろう。昼というのは分るよ、まだ空が明るいからね。となると下校中のなのはちゃんかそのペットのユーノぐらいが気が付いてくれるだろう。

（Help。あれ？なんかデジャヴユ？）

（数時間後）

「ユーノ君！たしかにこっちの方で声が聞こえたの！」

「まってよなのは！僕にはそんな声きこえなかったよ！」

おお！やっと愛しなのは様が僕に気が付いてくれた様です。助かった……………

「あつ！この鳥さん、怪我してる！ユーノ君どうしよう！」

えっ！鳥？ああ、今僕は鳥の姿なのか……………インコかな？インコなら喋っても怪しまれないからいいんだけど。

「ほんとだ！ちょっと見せて……………このぐらいなら、僕の魔法で何とかできるかも。」

ユーノ君……………君って奴は、ホントにいいやつだよ。まあ、怪我が回復してもセルメダルの不足からくる体の気だるさは取れないけどね。

「よしっ！怪我は治ったよ。」

「ユーノ君ありがとう！でも、誰がこんな事したのかな？見たこと無い種類の鳥だけど……………」

「一応僕の時みたいに動物病院に連れて行った方が良いんじゃないかな？」

「うーん、そうしたいんだけど私そんなにお金持っていないの．．．」

なのはさん！お金の心配ですか！僕だったら傷ついた動物がいたら動物病院に．．．．．連れて行きませんか。はい、すみませんでした。そりゃそうだね、見ず知らずの動物をいちいち病院送りにしてたらお金なんてあつという間に無くなっちゃうもんね。

「とりあえず、家に連れて帰ろうと思うんだけど。ユーノ君どう思う？」

「別にいいんじゃないかな。桃子も士郎もきつと許してくれるとおもうよ。」

おや？僕も高町家の一員になれるという事でしょうか？そしてこの作品を読んだ人に淫獣って呼ばれてしまふんですね、わかります。

「ところでユーノ君。この子全然動かないけど大丈夫なのかな？」

「大丈夫、脈も正常だし、単に寝てるだけだと思うよ。」

違います。動かないんじゃないんです。セルメダル不足がこんなに苦しいとは。嗚呼、我が愛しきセルメダル……………
いったい何処に。

さてと、今度からどうやってセルメダル作ろうかな。僕はなかなか動けないし、セルメダルが少なくて擬態ができないみたいなのです。そして元の姿に戻れないとなるとこれは打つ手なしかな？

くなのは様移動中く

「ここが君の新しい家だよ！えくと……………名前どうしようか？」

「なのはの好きにすればいいんじゃないかな。あつ、気が付いたみたいだよ」

ここで僕は寝たふりをやめる。どうしようか。ここで念話を使ってお礼を言うべきか、然るべき時までただの鳥として演技をしていくべきか……………よし！鳥として生きていこう。そうし

よう。

「ぴっぴ！ぴっぴ！」

僕は必死に鳥の鳴き声をだす。体が鳥だから特に苦勞はせず自然と出せました。

「わー。かわいい！ねっ！ユーノ君もそう思うでしょ！」

「ほんとだ、確かになんだか和むね」

おや、これはなかなか好感触。なのは様の親御さんにもこの手でいかせてもらおうかな？

くそしてご対面く

「家でこの子を飼いたいの！」

「べつに良いんじゃないか、俺は別にいいと思うが」

「私も賛成よ、だってこの子すごくかわいいじゃない!」

ふふふ、僕はともかわいようです。と、いう事は戯れるときにどきくさに紛れてクンカクンカしても………ゲフンゲフン、なんでもないです。僕はまだ淫獣って呼ばれたくないからね。淫獣はユーノで十分だよ。

「やったー!じゃあ私の部屋で飼うのー」

とうとう僕も高町家の一員ですか………と、いう事はなのはのあんな姿やこんなすが………え?今僕なんか言ってたかい?言ってた?気のせいだよ。ハハハハハハあぶねえ。

くなのはの部屋く

「ところでユーノ君、ちょっと聞きたいことがあるんだけど」

「なんだいなのは、なんでも聞いてよ」

「ジュエルシードの事なんだけど、最初の一個以外全然見つからないってことは、もう誰かが拾っちゃたのかな？」

ぎくっ！なのはさん鋭い。冷や汗が止まりません。そのなのは様が探しているものはケースに入れて僕の体内にしまってる訳ですから、もし何らかの拍子にバレてしまったら確実に管理局に引き渡されてしまうかも……。いや、バレる訳ないよ。僕はもともと自分に自信を持つべき。

「その可能性は低いよ。この次元世界には魔法の文化が無いから魔導師もない筈だし、もし人間が触ったとしたらなにかしらの事が起こってると思うんだ。」

「何かしらの事……。あっ！そういえば昨日海の方で爆発があったってテレビで見たの！きっとジュエルシードはそこにあるの！」

！？、ユーノがまったくはずれの考えを提示してくれて安心してたら一気に確信をつかれたよ！っていうか行ったらさすがになのは様でも殺されてしまう。あわわわわわわ！どうにかしないと。

「うーん、でもそこは結構遠いでしょ。なのはが学校に行った後に行ったら夜になっちゃうよ。だから僕が様子を見に行ってみて、なにかあるようだったらなのはが回収に行けばいいよ」

よしっ！流石ユーノ！これではらくは大丈夫か．．．．．
なのは様が死ぬのは何としても避けたい。一応僕の命の恩人だし、
なんとかして守ってあげたいなあ。よしっ、セルメダルを集めよう。
セルメダルを大量に吸収すれば絶対負けないはず。皆さんもテレビ
で見たでしょ？あのウヴァの超進化を．．．．．

「うん、わかったの。じゃあ今日はもう遅いから私寝るね」

「まってなのは！寝るなら着替えてからにしないと」

！？ユーノ．．．．貴様確信犯か！やっぱりお前は淫ＺＹ「わか
ってるよ。」（ガサゴン）

僕がユーノを淫獣認定しようとした時になのはが着替え始めてしま
った。するとユーノは顔を赤らめて後ろを向く。

目、目の前でなのはがき．．．着替えを。ゴクリ．．．．．
待つんだ僕！早く目をそらさないと読者様からぼくが淫獣認定され
てしまうぞ！ああ、でも、しかし、ゴハア！

僕は目の前の景色の刺激が強すぎ＋淫獣と言われてしまうかもしれ
ないプレッシャーで気絶しそうになったよ。危なかったです。

そんな事よりも明日からなのは様がない間にセルメダル集めをしなければならぬね。だから今日は早く寝ないと・・・・・・・・お休み！。

～次の日～

（うーん、むにゃむにゃ。ちよっ、ユーノお前そんな・・・・・・・・どうやったら淫獣検定1級とれるんだよ・・・・・・・・っ
て、夢か）

おはようございます。ちよっとした悪夢をみた夏輝だよ。今日はメズールのヤミーを作りまくって一気にセルメダルを集めようかと。早くしないと最悪なのは様かフェイトあたりがタコサイヤミーに殺されかねないからね。

おや？もう7時だというのになのは様が起きてないです。とうとうユーノが職務放棄したようだね、今のうちに外に出るかな・・・・・・・・

ふう、今日も長い一日になりそうだよ。

第4話 家族が増えるそうです。(後書き)

タコサイヤミーははっきり言って闇の書の闇より強い気がしてきた。
気のせいだよね？

第5話 スーパーゴキブリタイム！（前書き）

今回は少し多くかけた。

他の人の作品読んでたら自分の作品がずば抜けて駄文だという事に気が付いた。

第5話 スーパーゴキブリタイム！

「これは淫獣です！」 第5話

前回の3つの出来事。

1つ、なんと夏輝は生きていた

2つ、夏輝が高町家の一員になる

3つ、ユーノはやっぱり淫獣だった

今は午前7時ごろ。僕はヤミーを作るために手ごろな人間を探してるんだ。

（うーん、もう適当に片っ端からメダル入れてきや別にいいかな。メズールのヤミーだったら少なくとも一人百枚は取れるとおもうし）

僕はシャチ、ウナギ、タコのメダルを一枚ずつ取り込む。しかし、変化は羽の色が変わるだけ。ちなみに今は青色です。

（やっぱりセルメダル少ないと姿は変化しないみたいだね、早く集めないと）

と、そこに一人で歩いている男性を発見！僕は鳥の糞を落とすみたいにセルメダルを落とす。よしっ！すっかり命中！

さてさて、次は誰にしようかな。おっ、人発見。

僕はセルメダルを10枚ほど投下したところで、セルメダルの極度の不足からくる激痛に襲われたので高町家に帰宅することにした。

（はあ、セルメダル10枚使っちゃたけど。後は勝手に溜まっていくから大丈夫かな）

くと、いう訳で帰宅

（現在は7時30分か…….おそろく、卵ができてから生まれるまで約2日〜4日ほどだから、それまでユーノが海

に行くのを妨害しないといけないかな。)

と、なると僕が念話で喋れる事を二人に話しておいた方がいいのかな．．．．．いや、それだとどさくさにまぎれてあんな事やこんな事ができなく．．．．．ゲフンゲフン。いや、この際しようがないかな。でも、もったいないな。

今、部屋にはユーノ一人。いま喋ってもなのはにはバレない、よし！喋っちゃおう。

(ねえ、そのフェレットさん。聞こえてるんでしょう?)

「だれだ！．．．．．あれ？誰もいない」

(ここだよ、ここ！)

「君は．．．．．昨日なのはが助けた．．．．．」

(カワセミの蔵見夏輝です。先日は助けに来てありがとうね♪あと、海には絶対に近づいちゃだめです。昨日あなた達の話聞いていたんですが、海での爆発は恐ろしい化け物が暴れたからなんです。それも、あなた達では太刀打ちできないような強大な化け物が．．．．．)

「忠告ありがとう。ところで、そこまで詳しいって故事は君はあの場にいたのかい？それならこんな形の宝石を見なかったかい？」

（ええ、見ましたよ。確か金髪の女の子が持っていた気がするよ）

ふふふ、これで僕は疑われずに済むよ。僕って賢いね、ほらほらもつと褒めてくれてもいいんだよ。え？嘘はいけないことだって？いやいや、嘘は言っていないよ。だって「気がする」だけだからね。決して「持って行った」なんて言っていないもんね。

「金髪の女の子？他に何か特徴はあったかい？」

（すみません。その宝石みたいな物が何だろうと思って近づいたら変な色をしたオオカミに襲われてしまって……………ぐっ！思い出したら傷口がずきずき痛みやがるよ）

僕は渾身の演技をユーノに見せつける。これで僕はユーノから見て完全に被害者だね。え？嘘はいけないって？僕はただ演劇の練習をしていただけです。ユーノと会話なんてしてませんけど何か？

「それは災難だったね。じゃあ僕はちよつと出かけてくるから。」

(あつ！フェレットさん。海にだけは近づかないでくださいね！絶対ですよ！)

「うん、君がせっかく忠告してくれたからね。海には近づかないようにするよ」

(そうですか、それじゃあ行つてらっしゃい)

「行つてきます」

ふいふ。これだけ言ったんだ。これでユーノが海に行くようなことになったら許せないね。まあ、嘘70パーセント。本当30パーセントの会話だったけど、気にしちや負けだね。

3日後

(うん、むにゃむにゃ……………おい！ユーノ、お前……………どうやったたらロリコン検定で100点取れるんだよ！)

つて、あれ？夢か。変な夢見ちゃったな．．．．．そう
そう、話が変わるけど昨日からセルメダルが順調に溜まってきて
ね、もう今日からでも活動できそうなんだ。僕の記憶ではそろそろ
なのは様が月村さんの家に招待されて、フエイトちゃんが出てくる
日が来るはずなんです。たぶん今日かな？と、なるとしっかり暗躍
しないとね！

「ユーノ君、翠ちゃん！今日はすずかちゃんの家遊びに行くの！」

ほら、来ました。あと、僕は高町家では翠ちゃんと呼ばれています。
まあ、なのはちゃんの前ではただのカワセミという事になってます
からね。おかげで良い思いを．．．．．いや、なんでも
ないです。

「と、いう訳だから翠ちゃんはこの中に入っててね」

なのは様はそう言いながら僕の前に鳥籠を出してきた。まあ、鳥を
肩にのせて外出なんてまずありえないからね。ここは素直に従がお
うかな。いざとなればゴキブリに擬態して脱出すればいい訳だから
ね。

く外出く

あ！そうそう、この前ユーノに僕の正体を聞かれたんだけど、ちょっと魔力を持っていて念話ができるようになったカワセミって事にしていたよ。ふふっ、僕ユーノに嘘しか言ってるねえwww

なんて言ってる間に月村さん宅に到着したようです。さてと、僕はちよつと脱出するかな。え？いなくなったらなのはが心配するって？大丈夫！セルメダルで作った僕の半身を置いていくからバレナイよ。

と、いう訳でゴキブリに擬態。みんな知ってるかい？ゴキブリって意外とハイスpekなんだぜ。一回なってみたら分るけどスピードがすごいんだ！見た目は気持ち悪いけどね、コアメダルを取り込んだら赤色とか緑色になれるから紛らわせ……………うん、よけいね気持ち悪いね。

くと、いう訳で移動

（うわ！死ぬ！死んでしまっ！）

僕は今必死に逃げてます。誰からかって？猫だよ。猫の群れ。

〈数分前〉

（さてさて、どこにジュエルシードを配置しておくかな）

僕は茂みの中をゴキブリの姿で駆け回っていた。このままではなのは様とフェイトが出会わないかもしれないからね。ジュエルシードを適当なところに設置しようと思ってるんだ。

（おっ！あそこは草が少ないな。よしっ！ここにしよう。）

僕はそう言い、茂みから勢いよく飛び出す。

しまった！モンスターハウスだ！

そうです。そこには猫が5〜6匹ぐらいいたんです。猫たちは僕の方を見ると、一斉に飛びかかってきた！

（うわーん！怖いよー！）

みんなに分るかい？自分より大きく、スピードが速い生き物が自分を殺すために追いかけてくる恐怖が……………

くそして現在に至るく

（畜生！ふりきれない！）

僕はゴキブリの独特なカサカサという音を出しながら必死に逃走中。

（こうなったら……………ちょっと早いけどジュエルシードを使うしかないかな。）

タイミング的には速すぎるがまあ、大丈夫だろ。僕はそう思いジュエルシードを先頭を走ってくる猫に投げつける！

（よくも僕を追いかけてくれやがって！これでも喰らいな！）

ピカーーーー！

にゃおーん

よしっ！巨大化した！たぶんさっきの猫は原作の方でも巨大化してたあの猫だったわけだね。僕今日すごくついてるよ。

あとはフェイトたちが来るのを待つだけか．．．．．暇だね。
うーん．．．．．そうだっ！今回どさくさに紛れてフェイトに着いていこう！少なからず楽しめそうだしね。

（数分後）

はい、今なのは様とフェイトが戦っております。え？僕が今何をしてるかって？見るだけですが何か？だって今正体明かすと後でいろいろ面倒くさそうだからね。今回はフェイトさんにどのタイミングでしがみつくかを考えてるんだ。

ドカーン！

（あつ！なのは様が負けちゃったよ。さてと、今のうちに背中にでもくっついとくかな）

僕はそう言つと、フェイトの背中に張り付いた（ゴキブリの姿で）

それにきずかないフェイトはそのまま家に帰った。ゴキブリが背中に張り付いてるとも知らずにね……………

（フェイト宅）

「アルフ、今帰ったよ。」

「お帰りー、フェイト……………って、背中に何かついてるよ」

げっ！いきなり見つかった！どうしようか……………とりあえず上の方によじ登るかな。

「うわっ！フェイト、これゴキブリじゃないか！」

「えっ！ア、アルフ！早くとってー！」

（ふふふ、涙目になってるフェイトちゃんはかわいいな。）ニヤニヤ

この瞬間！僕の中で悪戯心が激しく動いた。

（そうだ！このままフェイトちゃんの体を這いずりまわろう！ぐへへへへへ）

カサカサカサカサカサカサカサカサカサカサカサカサカサ

「いやーーーーー！」

おおっ！フェイトちゃんが半泣きでアルフにゴキブリをとってもらおうとする姿！萌える！！

カサカサカサカサカサカサカサカサカサカサカサカサカサ

くスーパー這いずりタイム中く

カサカサカサガッ！「よしっ！やっと捕まえた！フェイト、もう大丈夫だよ。」

（おお、捕まってしまった。っていつか、ゴキブリを素手で掴めるアルフさんがすごいです。）

「うつつ、気持ち悪かったよー」

（うほっ！フェイトちゃん、なんて萌えるんだろっ。もうこっち側についてちやおうかな？）

「ところで、こいつどうする？握りつぶしちゃおうか？」

「うん、そうしちゃって」

うおー！やばい！つぶされちまうよ、しかも素手で！ちよちよちよちよと待って

「ちょっと待って！僕はゴキブリじゃなくてGの妖精だよ！ここに住まわせてくれるならGの妖精の加護と何か願い事を一つだけかなえてあげるよ！」

僕は苦し紛れに叫んだ。

「うわっ！このゴキブリ喋るよ！フェイト、なんかこいつが願い事かなえてくれるって言うけどどうする？」

「あつ！あと、人の心とかは操作できないから、くが欲しいとかの願いにしてよね」

「うん、じゃあジュエルシードを出してくれるかな？」

「分ったよ。」ガサゴソ、「はい、ジュエルシード。1個だけだけどね」

生き延びるためならジュエルシードの1個や2個ぐらいどうってことないのです。まだ10個以上あるからね。

「え？1個だけ……」

おおっ！しょぼーんとするフェイトちゃんもかわゆい。よしっ！特別大サービスだ！もう1個だけ出してあげよう。

「そんな泣きそうな顔している君に、もう1個だけ出してあげよう。」ガサゴソ「はい、ジュエルシードもう1個。もう手持ちはこれだけだけど元気をだしてほしいな」

「ゴキブリさん！ありがとう！アルフ、やっとジュエルシード手に入れたよ！」

うっほ！はしゃぐフェイトちゃんもかわゆい。

「ところで、ですが。僕はゴキブリの姿が故に住まいが無いのです。繁殖しないと約束するのでここに住んでもいいかな？探し物があるならゴキブリネットワークを使って一緒に探してあげてもいいですが。」

「うっん、アルフどうする？」

「別にいいんじゃない。繁殖しないって言ってるんだし、こいつ良奴だよ」

「そうだね、じゃあここに住んでもいいよ。ただし、数が増えてたら出て行ってもらうから」

「お二人ともありがとう！僕は蔵見夏輝、よろしくね！」

「うん、私はフェイト、フェイト・テストロッサです。よろしく」

「私はアルフって名前なんだ。よろしく、夏輝」

「フェイトちゃんにアルフさんですね、お二人とも良いお名前ですね。ハハハハハハ」

フェイトちゃん家に住めるみたいだ！やったね！

今回もいろいろ好き勝手やった夏輝なりました。

第5話 スーパーゴキブリタイム！（後書き）

はいっ！第5話終わりました！

今回もなかなか頑張れた気がします。

あと、感想をくださった方々ありがとうございます！！

第6話 家族って素敵ですね（前書き）

今作は失敗せずに無印編を完結できそうです。

ネタに走ってばっかだと話が進まないことに最近きずきました。

第6話 家族って素敵ですね

「これは淫獣です！」 第6話

前回の3つの出来事

1つ、夏輝はなのはの元を離れた

2つ、夏輝はジュエルシードを使い、猫の願いをかなえた

3つ、スーパーゴキブリタイム

やあ、身も心もゴキブリに近づいてきた夏輝だよ！

いや、ゴキブリの体はすごいね。他のゴキブリと話せるし、速く動けるし、飛べるし、なんでも食べれるよ。例えばフェイトちゃん
の髪の毛とか、アルフさんの髪の毛とか、他にもいろんな所のk．．
．．．．ゲフンゲフン！いや、なんでもないよ。ハハハハハハ
ハハ

最近では順調にセルメダルが溜まってるんだ。フェイトちゃんは留守が多いから、ヤミーも入って来やすいんだよ。高町家にいたときは本当に慎重に侵入させてたからね。

それでさ、最近フェイトちゃんが一生懸命ジュエルシードを探している姿を見ると胸が痛むんだよねえ。だってそのフェイトちゃんのお目当ての物はタコサイヤミーが吸収してるやつ以外ほとんど僕が所持してるわけだからね。なんだかわいそうになってきたよ。

「ただいま」

おっ！噂をすればなんとやらだね。

「お帰り」。今日の収穫どうだった？」

僕はゴキブリのくせに二足歩行してフェイトさんに近づく。

「今日も一つも見つからなかった……どうしよう……」

あらら、完全に元気ないね。まあ、ジュエルシードが無いとプレ

シアさんに怒られちゃう訳だし、元氣なくて当たり前だろうね．．．
．．．え？ジュエルシード渡してあげないのかって？上げるわけ
ないでしょう。僕もフェイトちゃんは好きだけど、それがジュ
エルシードをタダであげる理由にならないよ。

まあ、いざとなればウヴァのメダルを取り込んで、分裂した無数の
ゴキブリ軍団でアリシアの体を這い回ってやればプレシアも言う事
聞いてくれるだろうしね。僕も良い思いができて、フェイトも解放
されると来たもんだ。こりゃハッピーエンドだね！

「ねえ、夏輝。他のゴキブリさん達がジュエルシード見たって言っ
てなかった？」

「そうだね。白い魔法使いみたいな女の子がそれらしい物を一つ
持ってたって、翠屋に住んでるゴキブリの田中さんが言ってた気が
するな」

「翠屋ってどこにあるの」

おお、フェイトちゃんの目つきが変わった！

「この近所だよ。ただ僕も場所がよく分らないんだよね。次の「ド
キッ？ゴキブリだらけの町内会」をこの家でやっていいなら田中
さんに聞いといて上げるけど．．．．．どうする？」

「うつ……………ごめん、それだけはやめて」

「そうかい、残念だね。じゃあ僕はフェイトちゃんのために他のゴキブリ達から情報集めてくるね」

いやがるフェイトちゃんの姿に萌えたから、その見返りに情報を集めてあげることにする。まあ、僕が持つてるんだけどね。

「うん、ありあとうね夏輝。」

「いやいや、居候が家主の為にがんばるのは当たり前だからね！じゃあ、行ってくるよ」

「うん、いつてらっしゃい」

うつほ！フェイトちゃんが僕なんかには微笑んでくさっている！フェイトさんの微笑みで僕の股間がマスタースパーク！そして外で居合わせたアルフさんの視線がパーフェクトフリーズ！

「ゴキブリの集会場」

「やあ、吉村さんじゃないか。珍しいね、人の家に住まず海の近くで船虫の紛れて住んでいるあなたがこんな住宅地にくるなんて。」

「おおっ！、夏輝君じゃないか。いや．．．．．なんかね、船虫のみんなが「最近海で化け物が暴れてるからあなたは人間の所で住んだ方が良い。」って言うからどこか良い場所がないかってみんなに聞こうと思ってきたんだわ。」

「へえー、それは災難でしたね。それよりも船虫のみなさんはやさしそうですね。他種の吉村さんを心配するなんて」

「おうよっ！船虫のみんなとは種族こそ違えど家族同然だからな！」

「そうだね、僕も最近人間と家族になってね。仲良くやってるよ。」

「へえー、世の中変わり者もいるもんだな。ゴキブリを家族にするなんて。」

「まあ、他の人間は絶対にありえませんかね。吉村さんも人間には注意してくださいよ、特にガキはむやみに踏みつぶそうとしてくるから。」

「ああ、肝に銘じとくよ。いや、海での生活が長かったからうまくやってけるか心配なんだよ。」

「ははは、まあがんばってね。僕も仲間が死ぬのは嫌だし」

「おっ！心配してくれるのかい。ありがたいねえ」

「こんな感じで世間話が続く」

「まあ、そういう事だから。夏輝も海で起きたことを聞いたかったら船虫のみんなに聞けばいいよ。ただ、みんな顔見知りするタイプだから他種の僕たちが打ち解けるのには時間がかかるけどね。」

「はいはい、じゃあ、今度海に行つて見るよ。じゃあ、またね吉村さん。」

僕はいったん吉村さんと離れることにした。そういえばタコサイヤミーはずっと放置状態だけど今どうしてるんだろう。たしか、タコサイヤミー君は僕のジュエルシードを回収したいって言う欲望から生まれたから、まだ探してるんだろうけど……………そ

のうち陸に上がって来そうで怖いね。そうになると、僕はいくらでも逃げれるけどフェイトちゃんが危ないなあ。海に魔法打ち込んだりしたらマジ洒落にならないからね。

よしっ！愛しのフェイトちゃんのために海の状態を船虫に聞きに行こうかな。さてと、羽を広げてバサバサーっと。

僕は羽で空を飛び、海まで行くことにした。あー、怖い怖い。僕のもってるジュエルシードに反応してくれなかったら良いけど……

く海へ移動く

ふいふ、やっと着いたよ。いやく遠い遠い。さてと、船虫の群れはどこかなく、っと。あそこかな？

「やあ、船虫君達。ちょっと海に何か異変があったか聞きに来ただけど。なにか教えてくれないかな？」

「え？おにいさん誰く？」

「おおっと、失礼。僕はゴキブリの吉村さんの友達の夏輝だよ。よろしく」

「ああ、吉村さんの友達かあ。えつと、海の異変について聞きたいって？」

「うん、そうそう。なるべく詳しく教えてくれたらうれしいんだけど。いいかな？」

「いいよ。えつとね、最近タコの足の生えた化け物がね、海で暴れてるつてお魚さん達が言つてたんだ。それでね、僕たちもそれが気になつてね、海の近くを探検してただけどね、そしたらね、こんなでーっっつかい化け物がいたんだ！その時そいつ寝てたみたいだから僕たちは何ともなかったんだけどね、すつごく怖かつたんだ」。

「え．．．あ．．．うん。よくわかったよ。ありがとう。ご褒美になでなでしてあげるよ」

「やったー、えへへ」

おお。この船虫の幼女すごくしゃべり方と声がかわいいんだけど……後半ずっと船虫の幼女を頭の中で擬人化して楽しんでたよ。うへへへへへへへへ。

「ねえ、ちよつと最後にペロペロしていても……………」
「いや何でもないです。はい」

危ねえ危ねえ。あとちよつとで船虫の幼女なんかに欲情するところだ
ったよ。なんか僕最近どんどん虫にちかづいていいってるな。自
重しないと……………」

「ねえ、もう行っちゃうの？」（上目使い＋涙目）

（うおおー！かわいいぜ船虫ちゃん！痺れるウー！！っ
は！僕はいったい何を……………」

やべえ、一瞬意識もってかれた。このままじゃ船虫の幼女相手にあ
んな事やこんな事を……………。おっと、こんな人間から
見ると気色悪い事でも興奮してしまう自分がいる。やばいやばい、
帰ったらいったん人間のすがたになろう。そしてフェイトちゃんに
抱き着こう！そうしよう。

「うん、ちよつとお兄さん忙しいんだ。また今度来るからね、じゃ
あバイバイ」

「うん！またね」

はあはあ。船虫ちゃん萌え〜。

くほんでもってフェイトちゃん家に帰ってきました。く

「ただいま〜。フェイトちゃん、帰ったよー」

「あつ、夏輝。おかえり」

あれ？フェイトちゃんが微笑んでくださっているのに全然興奮しない……………

「？、どうしたの？夏輝」

「いや、ちょっと昆虫が故の性癖の変化に戸惑ってるだけで……………」

ちよっ！マジもう限界だよ！早く人間に擬態して心も体も人間に戻さないと取り返しのつかない事に！

「ああ！もうっ！人間に擬態！」

僕は我慢できずにフェイトちゃんの視線なんか気にせずに人間に擬態する。（クロノよりもちよつとかっこいい感じ）

「ええっ！あなた……夏輝なの？」

「そうだよ、フェイトちゃん。僕は実はゴキブリじゃなくてね、ジユエルシードと一緒にこの次元世界にきた擬態能力に優れた生物なんだ。最近までちよつと事情があつてゴキブリの姿をとっていたんだけど。もうその必要は無くなった、っていうか、居られなくなつたから人間の姿になったんだ。」

うん、フェイトちゃんには嘘はつきたくないからね。本当の事をしやべるよ。

「へえ、そうだったんだ。」

「あれ？あんまり驚かないんだね。僕はてっきり何か言われると思つてたけど」

「うん……別に夏輝がどんな姿でももう家族だからね、

あとでちゃんとアルフにも説明しておくんだよ。」

「フエ．．．．．フェイトちゃん．．．．．ありがとう！そうだ！今日は収穫があったんだ。」ガサゴソ「はい、ジュエルシード！道に落ちてたのを拾ってきたんだ。」

「わあー。夏輝、ありがとう！」

うう、フェイトちゃんのやさしさに完敗。ジュエルシードの1個や2個持つていきなよ。えーと、ジュエルシードはあと．．．．．
．．11個か。まあ十分あるね、でもそろそろ誰かに渡すのは自重しようかな。もしかしたらタコサイヤミーを倒す時に僕が吸収する必要があるかもしれないし、僕がジュエルシードに取り込まれたとしてもフェイトちゃんを．．．．．いや、家族を守らないといけないからね。

今回は家族を守ると決断した夏輝なのでした。

第6話 家族って素敵ですね（後書き）

読んでくれた方々、コメントをくれた方々、本当にありがとうございます！！

コメントはgoodの力の源ですからね。コメントが増えればその分ネタも増える。ストーリーにも力が入る。

第7話 おや？夏輝の様子が……………（前書き）

今回はやや遅くなってしまった。時間的な意味で。

あと、コメントをくれた（ryさん！カイザーさん！）どうもありがとう！goodは今回もがんばったよ！

そして、そろそろ中間テストが近いので更新が遅れます

第7話 おや？夏輝の様子が……………

おまけ

「ちよっ！誰だよこんなところにゴキブリホイホイ仕掛けたの！吉村さんが引つかかっているじゃないか！」

天の声「ほっほっほっ、それは毎回ありがたいコメントをくださっているカイザー様の要望を聞き、我が仕掛けたものであるぞ」

「な！なんだってー！吉村さー！ーん！！」

天の声「ほっほっほっ。無駄じゃ無駄じゃ、そのゴキブリホイホイGは並みのゴキブリホイホイとは訳が違うのじゃよ。特に色がなっ！」

「ち、畜生！吉村さんは海での生活が長かったからこんな簡単な罠にかかったんだ！世間知らずのか弱きゴキブリを引っ掛けるなんて、こんなの絶対おかしいよ！」

「ほっほっほっ。それはお主が引っかからなかったからいけないんじゃないよ。それはもととお主を引っ掛けるために設置したものじゃないからな。」

「そんな．．．．．なんで教えてくれなかったの！教えてくれていたら僕がワザと引っ掛かってたのに！」

「ほっほっほっ。聞かれなかったからじゃ。」

「そんな．．．．．」

吉村「夏輝君．．．．．もういいんだよ。これも運命だったのさ．．．．．」ガクッ

「吉村さあーーーーーん!!」

本編

「これは淫獣です」 第7話

前回の3つの出来事

1つ、アルフの視線がパーフェクトフリーズ！

2つ、夏輝「船虫の幼女萌え〜」

3つ、夏輝は一人の人間としてフェイトの家族になった。

やあ、前回人間をやめかけた夏輝・テストロツス……………
ゲフンゲフン。夏輝だよ！

最近どんどんセルメダルが溜まってきてます。どのくらい溜まったかっていうと、一流の魔導師が束になっても勝てないぐらいかな？

そろそろタコサイヤミーとの決戦も近づいてる気がするよ。たぶんクロノが初登場する日だと思う。あの木の化け物の代わりにタコサイヤミーがでるって第六感が告げてる気がする……………

まあ、予想だけどね。

「どうしたの夏輝。考え事？」

おお、フェイトちゃんじゃないですか。そろそろ本当の事を話して無駄なジュエルシード探しをしなくていいようにしてあげないと．．．．．無暗に探させるとかえって危険だしね。

「フェイトちゃん、ちょっと話があるんだ」

「？、どうしたの夏輝。そんな真剣な顔をして」

「いや、本当に真面目な話なんだけどね。僕実はジュエルシードのありかを知ってるんだよ」

「えっ！本当？」

「うん、本当だよ。でもね、そのジュエルシードは全部で6個なんだけど、それを全部一匹の生き物が発動させていてとても危険なんだよ」

「ねえ、その生き物ってどこにいるの？」

「え？フェイトちゃん行く気なの？」

「うん、ジュエルシードが無いとお母さんを困らせてしまうから……」

嗚呼、フェイトちゃん。そんな悲しい顔をしないでよ。しかしまずいな、まだ話すのは早すぎたか。

「フェイトちゃん、それだけは絶対にだめだよ。相手は非殺傷設定なんて無い、本気で僕たちを殺そうとしてくる化け物なんだ。フェイトちゃんとアルフさんだけでは絶対に勝てないよ」

「うん、心配してくれてありがとう夏輝。でも……私はやらなくちゃいけないことがあるんだ」

はあ、なんで分ってくれないんだろうね。絶対に勝てないって言ってるのに。せめてなのはちゃんがいればなんとかなるかも……いや、ないね。

「だめだめ、だめだよ絶対勝てない……そうだ！せめて仲間を増やせばなんとかなるかも知れない、この前フェイト

ちゃんと戦った白い魔導師。彼女に全部説明したら手伝ってくれるかもしれない」

「うーん、でも私、あの子がどこにいるのか分らない」

「ああ、それは大丈夫。ゴキブリの田中さんにこの前住所聞いたから。えーと．．．．はい、住所はこの紙に書いといたから。」

「夏輝、ありがとう。なんだかいろいろ世話、かけさせちゃってるね」

「いやいや、いいんだよ。僕は家族のためになる事がしたいだけなんだからね」

よし、これで後2、3日は時間を稼げるか．．．．．あつ！まだこの頃なのはちゃんは収束魔法を覚えていないのか。ちょっと助言する必要性がでてきたね。なんかいろいろメモに書いてフエイトちゃんから渡してもらおう。

「あつ、フエイトちゃん．．．．．」

「夏輝、ちょっと待って。もう私たち家族なんだから、そのフエイ

トちゃんってやめない？」

「うん．．．．．そうだね。ところでフェイト、このメモ用紙を今度あつ白い魔導師の子に渡してくれるかな？」

「うん、別にいいけど．．．．．これ何？」

「いや、ちよつとした助言を．．．．．ね」

「そう．．．．．じゃあ、行ってきます」

「うん、いつてらっしゃい。あと、ジュエルシード取りに行くんだつたら白い魔導師の子と関係できるようにしておくんだよー」

ふうー、フェイトが行ってしまいました。と、いう訳で今のうちにフェイトの下着を．．．．．ゲフンゲフン、間違えた。今僕が持っている物の整理でもしておくことにするよ。ほら．．．．．たまにあるでしょ？散らかった部屋をかたずけてたらなんか良いものが出てくること。

さあ、景気よくドバーっと。

(ジャラジャラジャラ)

僕はセルメダルごと自分の中に入れてある荷物を吐き出す。

「えーと、セルメダルでしょ、コアメダルでしょ、後．．．．．
．．．ジュエルシード１１個に、夢と希望と紳士の嗜みと変態としての誇りでしょ．．．．．あっ！オーズドライバーだ
ー！」

いきなり良いものが出て来たよ。いやーすっかり忘れてたね。転生した時から持ってたけど、腰に巻くだけじゃ使えなかったからね、ハハハハハハハハ！！．．．．．ゴミだね。

うーん、そうだ！解体して音声が出る機会だけ取り込もう！そして僕でもコアメダル取り込んだ時に変身の音声になるから、気分だけでも味わえるようになる！．．．．．はず。

という訳で、

くスーパー解体タイムく

ふいゝ、いやゝ仮面ライダーのベルトっているいろいろ複雑だね。もう元には戻せないよ。はははっ！やっちまったぜ。

まあ、これで気分は仮面ライダーな訳だから後悔はしてないよ。反省はしてるけどね．．．．．なんだか世界中の仮面ライダーファンに怒られそうだよ。でもね、使えないオーズドライバーなんてそこらで売ってるDXオーズドライバーといっしょなんだよ。音声楽しむだけなんだよ。じゃあ分解しようって事になるだろ、常識的に考えて。

「さてと、実験実験」

僕はためにタカ・トラ・バッタのコアメダルを取り込む。

（さてさてどうなるかな）ワクワク

（ジャラジャラジャラ．．．．．タカ！トラ！バッタ！　タ・ト・バ！タトバタ・ト・バ！）シャキーン！

おおっ！メダルがぶつかり合う音の後に音声になったよ。やったね夏輝ちゃん！音声が増えるよ！！

（さてさて、姿はどうなってるかな）意外とオーズになってた

r)

僕は鏡を見たときに一瞬フリーズしちゃったよ。なんかね . . .
. すごく気持ち悪いんだ。

今の僕の姿はね、頭はアंक、胴体はカザリ、足はウヴァなんだよ。
なんぞこれ！聞いてないよ！

「いや これもなかなかかつこいいかな？いや、かつ
こいいよね！」

はじめ見たときは気持ち悪いと思ったけど慣れると意外とかつこよ
く見えてしまう。それが仮面ライダー

「まあ、とりあえずオーストライバーを吸収したことで強くなった
って事で良いんだよね？」

ふふふっ！僕はまた一段と強くなってしまったようです。後はジュ
エルシードの力も自由自在に扱えるようになれば100点なんだけ
どなあ。なんだかいまいち勇気が足りないんだ。いまならウヴァさ
んの気持ちも分るよ。ごめんねウヴァさん、テレビでコアメダルを
さっさと吸収しない君を見て「なんだこの虫頭野郎！さっさと吸収
すればいいじゃない！」なんて言っちゃって

今回はウヴァさんの気持ちをやっと理解した夏輝なりました。

最後におまけ

「ちよっ！誰だよこんな所に殺傷力抜群の罌を仕掛たの！田中さんが引つ掛かつてるじゃないか！」

神々しいgood「ほっほっほっ。それは毎回ありがたいコメントをくださっているカイザー様の要望を聞き、我が仕掛けたものであるぞ」

「な、なんだってー！田中さー！ーん！！」

く以下略く

田中「夏輝さん、これもきつと神のお導きだったのです……………
……………どうか悲しまないで……………」ガクッ

「田中やあ——ん!」

第7話 おや？夏輝の様子が・・・・・・・・（後書き）

夏輝「ゴキブリだって力いっぱい生きてるんだよ！だからみんなもゴキブリを見つけたら無暗に殺すのではなく、外に逃がしてあげようね」

good「いや、それ無理」

夏輝「おやおや、そんな反抗的な人間の家には数百匹のゴキブリを送ってやるつか？」

good「ちよっ！それだけはマジで勘弁してください」

夏輝「いや、もう限界だ！送るねっ！」

good「びちゃっ！」

第8話 覗き、絶対ダメ！（前書き）

テストが近いので少しおくれました。

goodはテストが嫌いな訳じゃ無いんですが、テスト勉強が嫌いなんです。でもちゃんと勉強しないと3年後に大変な思いをするので今頑張らないといけないんですよねえ。おお、大変大変。

第8話 覗き、絶対ダメ！

「これは淫獣です！」 第8話

前回の三つの出来事。

1つ、夏輝はフェイトに大体の事情を話した。

2つ、荷物を整理していると忘れ去られていたオーズドライバーが
でてきた。

3つ、それを夏輝は解体した。

やあ、！みんな、夏輝・テストロツス……………間違
えた。夏輝だよ！

いや、もうビンビンだね！もうビンビン過ぎて逆に僕の息子が縮

こまっちゃよ。ホント参っちゃうね。H a h a h a h a h a h a h a !

え？何がビンビンだって？うゝん、普通に答えるのも面白くないしな。それじゃあ君は何がビンビンだと思う？．．．．．分らない？じゃあヒントを上げよう！

ヒント1：すごく大きいものが出してます。

ヒント2：今までに何度も出てきてる登場人物からきてます。

ヒント3：ち。○じゃないよ！もうっ、何言わせるんだよ。読者さんのエッチ（シャルロット風に！）．．．．．すみません。

答えはタコサイヤミーからの殺意の波動だよ。嗚呼、なんとという急展開。でもそんな事は気にしない。それが夏輝クオリティ！

いやはや．．．．．なんでか分らんけど僕らが持つてるジューエルシードがタコサイヤミーに察知されちゃってね、僕の予想ではユーノがへまをしたか、アルフがへまをしたか、タコサイヤミーの親であるが故の失態か．．．．．たぶんユーノだね。そうに違いない！困ったらずぐに他人の性にするのも夏輝クオリティだ

よ！覚えといてよね。

まあ、悪ふざけはここまでにしておいて、これからどうするか考えないと。

「たぶん、すぐには襲ってこないと思う。もし、アイツが本能のままにジュエルシードを取りに来るとしたら、とっくに来てるだろうし。まだ時間はある……はず。今のうちにできることをやっとなないと。」

今できる事……それはフェイトが無事なのはと話をつけて帰ってくるのを待つことだ。

と、いう事で僕はとりあえずフェイトが帰ってくるのを待つことにした。

くフェイト帰宅く

「夏輝！温泉に行くよー！」

「そうなのか、良かったね……………って、えー……」

いったい何があったし！

とりあえず、今あったことをありのまま話すぜ！

フェイトがなのはに一緒に戦うように頼みに行っただと思っただら、いつの間にか温泉に行くことになっていた。

何を言ってるか分らないと思うが、俺もフェイトに何があったのか分らなかった。

以下略

「実は、最初は真面目な話をして、いったん休戦にしてもらった事になったんだけど、そしたらなのはが今度温泉に旅行に行くから一緒に行こうって誘ってくれたから……………ダメだったかな？」

「いや、別にいいんだけど．．．．．お金もあるし、時間もあるけど。まあ、息抜きも大切だしね。行ってきてもいいんじゃないかな。」

「あれ？夏輝は来ないの？」

「ごめんねフェイト。僕はこの町で残りのジュエルシードを集めておくから、フェイトとアルフで楽しんできなよ。」

「うん、じゃあお言葉に甘えて．．．．．」

「じゃあ、私も準備するかね」

「おや、アルフさんいらしてたんですか。」

「私はずっとそこにいたよ！まったく、あんたはいつたいどこに目をつけてるんだい。」

嗚呼、最近空気のアルフさん。もうすぐ出番が回ってくるから安心してくださいね（ユーノと一緒に囃役）

くそして次の日く

「じゃあ、そろそろ行ってくるね。」

「うん、いつてらしゃい。ところで忘れ物はないかな？着替えは持った？歯磨きセットは持った？あとは、パンツにブラジャーに．．．あっ！ごめんごめんフェイトはブラジャーつけてなかったん．．．．．ごめんなさいごめんなさい。謝りますからどうかそのバルディッシュを収めてくれないかな？」

フェイトが顔を赤らめながらバルディッシュを振りかぶってる。なんだか萌えるな。流石フェイト！いかなる状況下でも僕の息子を元気な．．．．．げふんげふん。僕を萌えさせてくれる！

「なんで．．．．．」

「？」

「なんで夏輝がそんな事知ってるの！」

「H a h a h a h a h a ! そんな事決まってるじゃないか。僕

え？屑ヤミーの援護をしなくていいのかって？大丈夫、彼らはやればできる子達だから。

ズバツ！

ビシッ！

ガガガガガ！

「うわーーーーー！！」

うん、後ろの方から断末魔が聞こえるのは気のせいだね。きっとあれだよ、隣に住んでる男女がSMプレイをしているんだね。

「うん、なんて推理力なんだろうね。あんな効果音だけでここまで背後で起こっている事の詳細を推測できるなんて。ふふふ、実は僕見た目はメダル！頭脳は大人！そのなも……名探偵コナン」そこで何をしてるのかな。なつき」

なんですとっ！アホな事言ってる間にフェイトがここまで距離を詰

めてくるなんて。

ガシッ！（フェイトが僕を素手でつかむ音）

「ちよっ！フェイト、僕が本当はゴキブリじゃないって分ってたとしても美少女が素手でゴキブリをつかんじゃダメだって！」

「うん、確かにそうかもしれないね。でも、今の私はそんな事よりも夏輝を痛めつける事しか考えられないんだ。」

「え！？ちよっ！フェイト？なんで僕の羽をちよつとずつ引つ張るんだい？ああつ、そんなに引つ張つちゃたら千切れる！千切れちゃう！」

ブチブチッ！（羽を両方ちぎられる音）

「痛い！痛すぎるよフェイト！」

「夏輝？何を言ってるのかな？私は夏輝に心を傷つけられたんだよ。だからこのくらいでギブアップなんて釣り合わないよね？」

「フェイトさん！羽をちぎられるのがどれだけ痛いかって．．．
．．．触覚引つ張らないで！ちよっ！何その鋏！切らないで――
―！あっ！あっ！．．．．．．．．．．．．．．．．アッ――
――！！」

ジヨキンツ！（フェイトが僕の触覚を鋏で切る音）

（やばい！このままでは殺される！っていつか満面の笑みで羽を干切ったり触覚を切り落としてくるフェイトさん半端ねエ．．．．．
．．．そうだっ！良い事思いついた。

「フェ．．．．．フェイトさん。そろそろ時間じゃないかな？高町家の皆さん待ってるよ。」

「えっ？わ――！もうこんな時間！急がないと」

メキメキメキ．．．．．グシャア（フェイトが僕を握りつぶす音）

「ゴファ．．．．．結局最後までやりきるんだね．．．
」ガクッ

「どうしよう、急がないとなのはに迷惑がかったやうなあ。もうっ、
夏輝の性だからね」

フェイトはそう言つとさっさと行つてしまった。

（フェイトさん．．．．．あんまりです。まあ、このぐらい
じゃ僕は死なないけどね）

それにしてもすごく．．．．．怖かったです。

これからは覗きはやめよう。そう誓つた夏輝なのでした．．．．．
．．．．．

第8話 覗き、絶対ダメ！（後書き）

前回感想をくださったカイザーさん！ありがとうございました！！

今回もなかなかうまく書けなかったけど、これからがんばりますのでどうかよろしくお願いします。

第9話 My name is 淫・獣！（前書き）

息抜きで書いたらこうなった。後悔はしていない。

第9話 My name is 淫・獣！

「これは淫獣です！」 第9話

前回の3つの出来事

1つ、夏輝クオリティが暴走

2つ、屑ヤミー隊のみんながフェイトの手によってまたまた全滅

3つ、ゴキブリに擬態した夏輝が大怪我を負った

やあ、みんな！ゴキブリ紳士こと夏輝だよ！

実はね、今から数時間前にフェイトがなのはちゃんと温泉に行ったから僕は今一人でお留守番なんだ。

ねえねえ、この意味が分かる？ねえ、分かる？

分からないなら教えてあげよう……ふふふ、
実は今

「フェイトちゃん家には僕一人しかいないっ!!」

そう！一人だけなんだ！それならいつもならしちやいけない事がな
んでもできるんだよ！

例えば人間に擬態した姿で全裸になったって、全裸のままフェイト
ちゃんのパンツを頭にかぶったって履いたって、アルフのドックフ
ードを中身だけキャットフードにすり替えておいたって良いんだよ
!!

「ヒヤッツハー………ッ！テンションマックスだー
……………!!」

僕は自分の体からセルメダルを二枚抜き取り、屑ヤミーを作った。

「よし、屑ヤミーA・B・C・D！フェイトちゃんの下着をこの家
じゅうにばら撒け！祭りじゃ！祭りじゃ！」

A「うわっ！隊長殿がご乱心だっ！！」

B「良いじゃねエか、お嬢が留守の時ぐらい燥ぎまわわせてやろっぜ」

C「そうだな、隊長殿はお嬢の前ではいつも性欲をセーブして過ごしてんだ。

息抜きだって必要なんだよきつと」

D「こ．．．．．ここは桃源郷なんだな？お嬢のパ．．．
パンティに触り放題．．．．．う
へへへ！」

ふふふ屑ヤミードよ、お前とはうまいパンツが飲めそうだな。

「みんなっ！僕達グリードやヤミーはいつたい何を求めるか！？」

「欲望です！！」

「そう、欲望だ。僕達は欲望のためならなんだってやる．．．．
．．．．．じゃあ性欲の為にフェイトのパンティを部屋中にばらまいたって良いんじゃない？！」

「良いと思います！」

「そうだよな、欲望の為だもんね？仕方がないよね？」

「仕方ありませんっ！」

「読者の皆さんも別に構わないですね、フエイトちゃんの下着をこの僕達が好き勝手しても許してくれますよね？」

[illegible]

「お許しが出たか……………ようし
や！みんな、祭りだ—————！！」

A「私はお嬢のパンツを全部テーブルの上に広げるでありますっ！」

屑ヤミーA、いいセンスだ。

B「なら私はそのお嬢のパンツを部屋中に飾るでありますっ！」

屑ヤミーB……………G」

C「ならば私はドアのカギを占めてくるでありますっ！」

まあ、念のために占めとくべきだよな。屑ヤミーC、お前もG」

D「ア．．．．．アルフ様のし．．．．．下
着もクンカクンカし．．．．．したいんだな」ハア
ハア

す．．．．．好きにしろっ！

うんうん、みんな流石俺の屑ヤミーたちだ。自分のやるべきことが
よく分ってる（D意外な）

まあ、屑ヤミーDの気持ちも分からないわけじゃないよ？ただ僕は
フェイト一筋なだけだよ。

「じゃあ僕はさっそくフェ．．．．．フェイトのパンティ
を．．．．．」プルプル

なっ！この僕が震えているだど！？

まさか恐れているのか。万が一この事態がばれてしまった場合の事
を．．．．．

い．．．．．いや、それでも．．．．．それ
でも僕は、僕はこのパンツを．．．．．被る！

がばっ！

一同「おおー！ー！ー」

おお！なんだこの高揚感は！

パンティを被った瞬間、僕の中の恐怖心、ストレス、悩み事が一瞬で消滅した。

今、僕の中にはフェイトのパンティを被ったことによる満足感と達成感しか存在しない………だが、まだまだ物足りない！パンティだけじゃ僕の欲望は収まりきらないっ！

「ハハハハハ！なんだこれ！！パンティを被っただけでコアメダルを吸収した時よりも自分がパワーアップしたのが分かるぞ！やべえ、やべえよ………欲望が暴走しそうだっ！」

A「た、隊長殿！お気を確かに！」

B「おいおい、隊長殿の欲望（性欲）がどんどん高まっていく！100………150………300………」

．．．．．600．．．．．1200．．．．．
．．．．．2400．．．．．」ボンッ！

B「うわっ！スカウターがつ！」

C「こ．．．．．これやばいんじゃない？急いでお嬢のパンティを回収した方がいいんじゃないか？」

D「アルフ様のパンティ被ったら屑ヤミーからヤミーに進化したんだけど」キリッ

A B C「ええー！ー！ー！ー！っ！！」

D「これなんの姿なんだろうね？屑ヤミーA、俺今どんな姿してるんだ？」キリッ

A「くっそ、声や口調、顔までイケメンになってやがる。

っていうかお前の姿やべーよ。下半身はティラノサウルスかな？でも太ももの辺りはチーターが混じってるみたいだ。上半身はゴリラと．．．．．カメかな？腕はカマキリとトラが混ざってるし頭にかんしてはタカとプテラじゃねエか！」

B「そ．．．．．それだけじゃねエ！背中を見てみる！クジヤクウイングまでついてやがる。はっ、腰にはタコの足が！」

C「色はオレンジ色．．．．．いや、アルフ様色がメイ
ンだな。っていうかなんでパンティー一枚でそんなに進化したんだよ。
俺達屑ヤミーは一生屑のはずだろ？」

そう、屑ヤミーはセルメダルを割ることでは出来上がる屑の集団。

普通このような事はない。

A「ん？待てよ、じゃあ俺達もお嬢のパンティ被ればパワーアップ
すんじゃない？」

B C「！？」

B「被るか」

C「よし、被ろう」

がばっ！

A「・・・・・・・・・・・・・・・・・・変化しないな」

B C「「しないな」」

D「そりゃ君たちには足りないものがあるからだよ」

A B C「「足りないもの？」」

D「君たちに足りないもの、それは情熱思想理念頭脳気品優雅さ勤勉さ！そして何よりもおーーーーー性欲が足りない！！」キリッ

A B C「！？」

D「まあそういう訳だ。俺は今日から屑ヤミード改めアルファミーだ。気安くアルフ様とでも呼んでくれ」キリッ

A「え・・・・・・・・・・あ・・・・・・・・・・うん、分かりました」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

.....

24時間後

「どうしたんだお前達、もっと燥ごうよ！パンティがこんなにあるんだぜ！そんなテンション低くてどうしたんだよ」

A「た.....隊長殿！そろそろお嬢が返ってくる時間帯です！」

B「早くかたずけないとー!!」

「えー、じゃああと10分。10分だけ！」

C「そ.....そんな事言ってる場合じゃー！」

ガチャ！.....ガチャガチャガチャ！！

「（あれー、鍵がしまってる。ごめんなのは、少し待ってね）」

「（？、どうかした？）」

A B C「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・隊
長、外からお嬢の声が」

「総員、速やかにかたずけだ。音は立てるなよ」

「（夏輝——早く開けて！。いるんでしょー）」

「みんな無視だ！早くかたずけることだけを意識するんだ！」

やばいね。こんなパンティが錯乱してる部屋を見られちゃったら本
気で僕の首が飛びかねない。

急がないと！後10分なんて言ってる場合じゃなかったよ！

しかもさりげなくなのはちゃんまで来てるし！！

がさごそがさごそ

5分後

ドンドン（ドアをたたく音）

「（夏輝、お留守番ほったらかして外にいつてるのかな？なのはも一緒にいるのに待たせるなんて許せない）」

「（べ、別に私は気にしてないの。ほら、お買い物に行ってるのかもしれないよ）」

Aヤミー「（……………レディーをドアの前で長時間待たせるなんて。隊長殿は何を考えているんだ。くそっ！紳士的な私にレディーを待たせるなんてできない！）」キリッ

Aヤミー「（お嬢様！今鍵を開けますね）」（念話）キリッ

ガチャ

「お、おい屑ヤミーD！一体なにをしてるんだ—————！」

ドアが開いた事に気が付いた僕はドアの方を振り返る．．．．．
．．．．．と顔を真っ赤にしたフェイトと目が合っ
てしまった。

「な．．．．．夏輝？これはどういう事なのかな？」

フェイトは顔を真っ赤にしながら俺に尋ねてきた。

「うわー、これ全部フェイトちゃんのパンツ？なんでこんな部屋い
っぱいに落ちてるんだろ？」

ちょ！なのはちゃんまで入って来たよ！

望みは絶たれたーーーーー

「こ．．．．．これは．．．．．違っ
んです」

「何が？」

「あ．．．．．その．．．．．パンティが落

ちているのは．．．．．強盗です！強盗が入ってきました！」

やや苦しい嘘、だが言わないよりはマシ。圧倒的に、マシ。

ざわざわざわざわ（夏輝たちが動揺してる様子）

「じゃあ．．．．．その頭にかぶってる私のパ．．．．．
．．．．．パンツはどう言う事？」

「はっ！これは．．．．．実は．．．．．」

Aやミー「隊長殿がパンツ祭りと言いながら喜んで被ってましたよ
キリッ

「夏輝、覚悟はできてる？」

フェイトはそう言いながら僕たちにバルディッシュを向けてきた。

「え？あ、ごめんなさい。助けて」

「問答無用！プラスマランサー……………！！」

ズガガガガアアアアン……………！！

夏輝・屑ヤミ―ABC「うわ……………」

第9話 My name is 淫・獣！（後書き）

危なかった。

この話を「これは淫獣ですか？」に次話投稿しようとして間違えて「火炎の剛力者」のほうに次話投稿してしまいそうになった。気が付いて本当に良かったと思う。

第10話 ビデオ屋さんの暖簾の向こう（前書き）

シリアスが書けなくなって来たのでこっちに少し力を入れることにしましたよ。

今回は日常編です！

p.s. アルフ書きにくい。

第10話 ビデオ屋さんの暖簾の向こう

”これは淫獣です!” 第10話

前回の3つの出来事

1つ、屑ヤミーA「うわっ!隊長殿がご乱心だっ!!”

屑ヤミーB「良いじゃねエか、お嬢が留守の時ぐらい燥ぎまわわせてやるうぜ」

2つ、屑ヤミーD「ア……………アルフ様のし……………
……………下着もクンカクンカし……………したい
んだな」ハアハア

3つ、屑ヤミーD「アルフ様のパンティ被ったら屑ヤミーからヤミーに進化したんだけど」キリッ

屑ヤミーA「くっそ、声や口調、顔までイケメンになってやる」

やあ、こんにちは。

ゴキブリの妖精ことグリードもどきの夏輝だよ。

現在、僕たちはあるDVDを借りるためにビデオ屋さんに来てるんだ！

Aヤミー「隊長、この18禁と書かれた暖簾のれんのむこうには何があるんでしょうね？」キリッ

「おいおい、元・屑ヤミーDことAヤミーアルフ君。本当は分かって言ってるんだろっ？

このむつつりスケべめ！」

Aヤミー「あちゃー、隊長殿にはお見通しでしたか」

「ふっ、僕はAヤミーアルフがビデオ屋さんに行きたいと言いついた時から気づいていたさ。

さあ、この暖簾の向こう側に足を踏み入れようじゃないか！」

店員「18歳未満はこの先に入ってはいけませんよ」

あぁん、酷い

.
.
.

「で、結局入れなかったけど何か目的のDVDでもあったの?」

Aヤミー「実は」
「ゴニョゴニョ」

「なに! アルフ似の女優が出てるDVDを見つけただって! ?
. 誰得だよ」

Aヤミー「私得です」キリッ

な、なんでこいつこんなにアルフloveなの?
一体こいつに何があったの? 死ぬの?
. はっ!、まさかこの世界、アルフがメインヒロインなのか! ?

「いや、そんな事はどうでもいいや。まあ確かにアルフは大人っぽいし美しいしね。」

Aヤミー君が惹かれるのも分らなくもないよ」

「おや？隊長殿もやっとアルフたんのよさが分かって来たようですね」キリッ

「アルフたん！？」

Aヤミー「かみました。アルフさんです」

「嘘だ！」

Aヤミー「かみまみた」

「嘘じゃない！？」

Aヤミー「冗談ですよ。アルフたんはアルフたんです！隊長殿だつてお嬢の事をフェイトたんってたまに言うじゃないですか」キリッ

「そ…………それはフェイトたんはまだ子供だからだよ。」

流石にアルフは大人なんだから”たん”をつけちゃダ変だろ？」

Aヤミー「何を言ってるんですか！アルフたんは見た目が大人なだけで実年齢はお嬢よりも下！圧倒的に下なんですよ！！そんな勝手な事言ってるどぶっ飛ばすぞ」

「うん、なんか……………ごめん」

「いいですか？アルフたんはですね」クドクド

わふー

1時間後

「という訳で、アルフたんは私の嫁な訳です」

やっと……………やっと終わった……………
もう軽く一時間ぐらいはアルフの話ばかり聞いてたよ。

頭がどうにかなりそうだった。

アルフ萌えとかそんなチャチなもんじゃあ 断じてねえ……………
もつと恐ろしいものの片鱗を味わったぜ……………

A「ヤミー」ところで隊長、どうしましょう？」

「え？何が？」

A「だからDVDですよ。DVD」

「うーん、でも18歳未満は借りれないしなー。

A「ヤミー君が人間に擬態できたらいいんだけど」

A「何言ってるんすか。私はヤミーであることを隠すために体の突起部分を全部削り取った上にこんな糞暑いのに厚着して人間に擬態してるのにその言いぐさは無いんじゃないですか！それに隊長殿が大人に擬態すればいいだけの話じゃないですか！」

「うーん、そうしたいのはやまやまなんだけど。
この前フェイトちゃんにボコボコにされたせいでメダルが足りないんだよ」

そうさ、今だってすごく辛いんだぞ！

メダル一枚一枚を引き延ばしてやっとクロノ君ぐらいの背丈を維持してるけど……………

辛いんだぞ！

A「はあー、万事休すですか。

見たかったなあ……………DVD」

「僕も見なかったよ。まあ、後18年も待てば借りれるようになるさ。諦めよう」

A「そうですね。もう良いです。私は帰った後にアルフたんの下着を盗んで我慢しますよ」

「お、それ良いね。じゃあ僕もフェイトの下着を1〜2枚ほど盗もうかな」

という訳で僕たちは家に帰る事にした。

「その頃のフェイトとアルフ」

「この前夏輝に下着を好き勝手にされたから金庫を買って来たよ」

「おつ、流石フェイト！じゃあ私の下着も一緒に入れてくれないかい？」

私の下着も最近誰かに盗まれてるみたいなんだ」

「え？そつなの？たぶん夏輝の仕業だね。帰ってきたらお仕置きしないと……」

30分後、夏輝はまた数十枚のセルメダルを失う事になる。

第10話 ビデオ屋さんの暖簾の向こう（後書き）

皆さんの意見を聞きたいんですが、オーズやバースって出した方が
良いですか？

出すとしたら敵か味方、どちらが良いですか？

ご意見待ってます！（コメントに書いてください）

これは淫獣です外伝―――反逆のコックローチ（前書き）

ちよつとパレル書いてみた。いわずと知れるA・S編です。

続かないよ！

これは淫獣です外伝――反逆のコックローチ

この日、僕は目を覚ますと見知らぬビルの屋上に立っていた。

周りは暗く、どうやら夜らしい。

僕は訳も分からず身の回りを確認すると隣のビルの屋上に一人の女の子がたっているのが見えた。

「あの子、あんな所で何してるんだろ……………」

もうこんなに暗いの……………とっていると、どこからともなく変な球体が女の子に向かって飛んでくるのが見えた。

「あ、危ない！」

女の子はその球体に気がついていようだが、まったく逃げ出そうとしない。

このままだと直撃してしまう。

「大変だ、あの子を助けないと。何か、何かないのか!？」

僕はあたりを見回す．．．．．と、変なベルトとメモリが落ちていた。

「こ．．．．．これは、一体？」

「（それを腰に巻いてメモリを差し込んで！早く！！）」

ベルトを手にとってみる。するとどこからともなく声が響いてきた

「え？誰？誰がいるの？」

「（そんな事よりも、早く！女の子を助けるんでしょ！？）」

「あ．．．．．そうだった！えーと、これを腰に巻いて．．．
．．．．．あとはメモリを．．．．．つと」

僕はベルトを腰に巻き、メモリを手に取り、スイッチらしきものを押してみる。

『コックローチ！』

「え？え？なにこれ？」

「（早くベルトに差し込んでベルトを展開しなさい！）」

「え？ええ？．．．．．あー、もう！やるしかないか！」

僕は言われるままにベルトにメモリを差し込み、展開した。

『コックローチ！！』

テッテレ テッテレ テテテーン

するとなんだか愉快的気分になりそんな音楽が響くと、何やら自分の体が軽くなった気がした。

「え？一体何がどうなって．．．．．って！僕の姿が変わってる！！」

「（その通り！今日からあなたは仮面ライダーコックローチよ！さあ、早くあの女の子を助けて！！）」

「よし分かった！ってあれ？さっきまであのビルの屋上に居たはずなのに……………まさか間に合わなかった！？」

なんてこった……………なにやらさっきまで女の子がいたところは何かが爆発したような跡があるし、もっと早く行動しておけば……………

「（違うわ！こっちを見て！！）」

僕は声がした方をみると、さっきの女の子が変な服をきてまた違う女の子と戦っていた。

どうやら白い服の子がさっきの女の子みただけど、見るからに押されてる。

「（さあ！行くのよ仮面ライダーコックローチ！海鳴市を平和を荒らす奴らをやっつけて！）」

「分かった！誰だか知らないけど、ありがとう！」

そついうと僕は背中 of 羽を広げ、女の子のいる場所に向かって飛び

立つた
・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

これは淫猥です外伝！～反逆のコックローチ～（後書き）

なんでこんなもの書いてしまったのか………自分でわからないっす！でも後悔はしてません！初めてA・S編がけたし！

あ！ちなみに声の主は神様とかそんなじゃなくて、この日なのはに命を助けられたゴキブリです！ゴキブリの恩返しです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6618s/>

これは淫獣です！

2011年10月8日12時50分発行